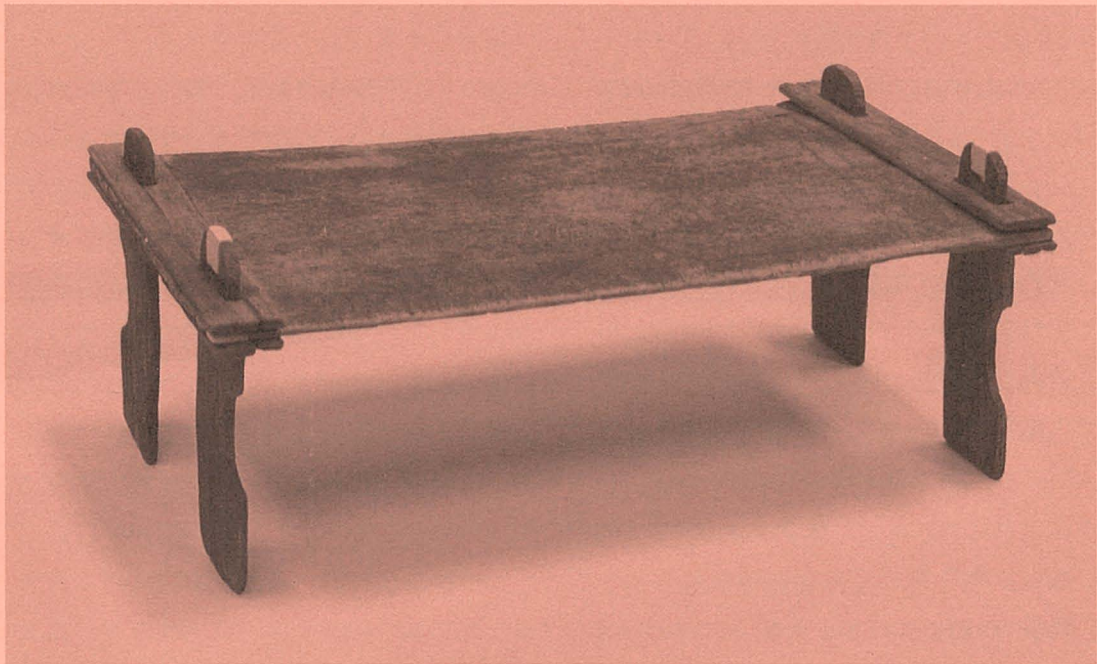


平成13(2001)年度

福岡市埋蔵文化財センター一年報

第21号



2003

福岡市教育委員会

序

古来から対外交渉の門戸として栄えた福岡市は、950箇所強の遺跡が所在しています。これらの遺跡の中で、板付遺跡や元寇防塁など一部の遺跡は国の史跡として、保存、整備を行い広く市民に公開しています。また、都市基盤整備や宅地開発などでやむを得ず消滅する遺跡については、事前に発掘調査を実施し、記録保存に努め、平成13年度も61箇所の発掘調査を実施しています。

埋蔵文化財センターは、発掘調査で出土した遺物や記録類を体系的に収蔵・管理し、多くの市民に活用していただくために、昭和57年2月に開館しました。開館以来2度にわたって増改築を行い、収蔵庫、展示室、保存処理などの拡充や公開講座の充実に努めてまいりました。

平成13年度は、新たに62件の調査分を収蔵し、累計で960件の調査分を本収蔵しています。これらの資料を広く市民の方々に利用していただくよう努めてまいりますので、今後とも関係各位のいっそうのご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年3月14日

福岡市教育委員会 教育長 生田 征生

目次

I 平成13(2001)年度の活動	1
1. 資料の収蔵・整理	1
2. 保存処理	6
3. 教育普及活動	25
4. 入館者数	32
5. 平成13年度当初予算	32
II 埋蔵文化財センターの概要	33
1. 構成と職員	33
2. 施設	33
付1 福岡市埋蔵文化財センター条例等	35
付2 平成13年度刊行福岡市埋蔵文化財調査報告書一覧	裏表紙見返し

例言

1. 本書は平成12年度(2000年4月1日～2001年3月31日)の福岡市埋蔵文化財センターの業務年報である。
2. 本書の作成は、所長山口譲治の統括のもと、村上敏文、常松幹雄、加藤良彦、比佐陽一郎、片多雅樹が執筆した。

※表紙写真は組合式机(雀居遺跡第4次調査出土)

I 平成13(2001)年度の活動

1. 資料の収蔵・整理

(1) 収蔵方針

昭和44(1969)年の文化課発足以来、市内における緊急調査や史跡整備に伴う確認調査などで得られた出土品および写真・図面等の記録類は膨大な数量に及んでいる。これら考古資料の保存と活用をはかり、以て市民文化の向上に資するために、昭和57(1982)年、福岡市埋蔵文化財センター(以下、センターと呼ぶ)が設立された。

現在、福岡市の文化財行政は教育委員会文化財部(組織はⅡ-1章参照)で行っている。このうち埋蔵文化財の発掘調査は埋蔵文化財課、大規模事業等担当課、鴻臚館跡担当課が常時実施している他、文化財整備課も史跡整備に伴う発掘調査を不定期に行っている。これらの発掘調査に伴う考古資料は、埋蔵文化財課では3ヶ所の整理事務所で、また大規模と鴻臚館ではそれぞれの調査事務所で整理作業を行い、報告書作成の運びとなっている。センターは報告書が刊行された考古資料を発掘事業担当課から受入れて収蔵し、管理することを事業の柱の一つとしている(発掘事業は行っていない)。

このように発掘調査で得られた考古資料は、速やかに一般公開され、広く市民や研究者に活用される事が望ましい。このため文化財部では発掘調査、整理、収蔵の一連の作業を統一性をもって円滑に行い、考古資料の多用で迅速な活用をはかるため、昭和60(1985)年に「埋蔵文化財資料の収蔵整理要項」(『福岡市埋蔵文化財センター年報』第5号1985所収)を策定した。この要項はその後実状にあわせ細部を改変したものの、策定後から要項に沿った発掘調査、整理作業が実施され、センターへの考古資料の収蔵も円滑なものとなっており、また収蔵された考古資料の活用も年々増加している(Ⅰ-3章

参照)。

これらの考古資料の収蔵のため、センターは開館以来二度の増改築を行った(Ⅱ-2章参照)。平成10年度の増築・改造で一般収蔵庫は1,953㎡の増床となり(全体で4,066㎡)、今後の出土品の増加を見込んでも、平成11年度から約15年間の収蔵スペースが確保できた。また、現在3階建の収蔵庫部分は、将来5階までの再増築が可能な構造である。

(2) 平成13年度の本収蔵

センターに本収蔵されている考古資料は、発掘事業担当課が報告書刊行後要項に沿った整理作業を行い搬入・収蔵したもの(埋文課と表記)と、要項策定以前に発掘調査が行われ仮収蔵されていた資料をセンターで要項に沿って整理したうえ収蔵したもの(センターと表記)とに区分される。

平13年度の本収蔵は、埋文課から搬入・収蔵されたもの45遺跡(追加収蔵1遺跡を含む)、センターで収蔵したもの17遺跡のあわせて62遺跡(新規収蔵53遺跡、追加収蔵9遺跡)である。主な収蔵品は遺物がコンテナ5,626箱と甕棺43個(コンテナ換算する場合は甕棺1個を12箱とする)、写真類が30,184点、図面類が7,297点、写真カードが7,253枚である(表2)。

出土品のうち土器・石器は一般収蔵庫に、金属器・木製品・玉類は特別収蔵庫に収納する。また写真類は第一記録類収蔵庫、図面類は第二記録収蔵庫、写真カードは第一資料整理室へそれぞれ納めた。

平成13年度までにセンターに本収蔵されたのは934遺跡(追加収蔵まで含めた収蔵数は960件)で、その内訳は登録遺物553,404点、甕棺1,060個、コンテナ61,322箱、ネガフィルム237,466点、

スライドフィルム272,330点、図面類102,539枚、写真カード128,733枚となっている(表1)。平成13年度までの市内での発掘調査は1665遺跡であり、そのうちの934遺跡、全体の約56%が本収蔵され、検索が可能となった。

の推移とともに、褪色・劣化が著しいものがあり、CD化を行い現状保存をはかることとした。2年度の今年は111遺跡について、フォトCDで委託製作した(表3)。

CD化にあたっては35mmを主な対象とし、報告書に用いられたカットとその他の必要なカットを調査遺跡番号ごと選択した。その選択割合は収蔵数の4枚に1枚程度である。

(3) ポジカラーフィルムのCD化

収蔵されているポジカラーフィルムには年月

表1 本収蔵一覧(1986~2001年度)

年度	収蔵区分	新規遺跡数	追加遺跡数	登録遺物点数	遺物		ネガフィルム			ポジフィルム			図面		写真カード
					壺棺数	コンテナ数	35mm(本)	6×7(コマ)	4×5(枚)	35mm(本)	6×7(コマ)	4×5(枚)	遺構	遺物	
1986 (S61)	埋文課	4	0	3,639	0	749	57	1,397	7	1,358	163	0	352	239	781
	センター	14	0	4,475	0	309	343	1,844	169	3,736	386	96	617	512	1,564
	年度合計	18	0	8,114	0	1,058	400	3,241	176	5,094	549	96	969	751	2,345
1987 (S62)	埋文課	12	0	8,860	3	779	284	4,051	8	2,931	373	0	994	1,223	2,744
	センター	9	0	2,631	1	217	229	2,327	80	3,121	254	2	427	290	1,630
	年度合計	21	0	11,491	4	996	513	6,378	88	6,052	627	2	1,421	1,513	4,374
1988 (S63)	埋文課	38	1	15,193	61	1,152	560	8,566	10	6,694	647	0	1,784	1,789	5,074
	センター	5	0	11,301	72	740	331	4,342	137	4,848	13	0	888	1,141	2,994
	年度合計	43	1	26,494	133	1,892	891	12,908	147	11,542	660	0	2,672	2,930	8,068
1989 (H1)	埋文課	11	0	16,380	6	1,121	231	7,507	99	4,634	966	63	1,612	1,619	2,343
	センター	3	0	6,701	0	868	155	3,559	92	2,906	0	0	105	418	2,090
	年度合計	14	0	23,081	6	1,989	386	11,066	191	7,540	966	63	1,717	2,037	4,433
1990 (H2)	埋文課	60	0	43,807	29	2,214	1,460	17,561	712	19,235	2,405	76	3,173	3,277	9,563
	センター	30	0	11,096	3	766	311	3,073	0	4,714	496	8	723	955	1,924
	年度合計	90	0	54,903	32	2,980	1,771	20,634	712	23,949	2,901	84	3,896	4,232	11,487
1991 (H3)	埋文課	57	0	32,480	32	3,028	599	10,974	45	9,051	1,095	67	2,435	2,552	6,075
	センター	6	0	4,586	65	724	395	3,303	86	3,541	811	45	666	865	1,856
	年度合計	63	0	37,066	97	3,752	994	14,277	131	12,592	1,906	112	3,101	3,417	7,931
1992 (H4)	埋文課	74	4	33,934	78	3,449	760	12,820	12	12,490	1,618	25	3,505	3,092	6,972
	センター	13	2	8,046	30	1,287	284	3,006	19	3,141	176	8	558	985	1,950
	年度合計	87	6	41,980	108	4,736	1,044	15,826	31	15,631	1,794	33	4,063	4,077	8,922
1993 (H5)	埋文課	52	0	28,850	26	4,355	711	21,093	38	12,410	2,949	17	2,858	2,811	11,587
	センター	6	0	6,034	7	1,118	237	22	463	2,123	0	26	308	156	654
	年度合計	58	0	34,884	33	5,473	948	21,115	501	14,533	2,949	43	3,166	2,967	12,241
1994 (H6)	埋文課	40	1	17,817	118	1,570	472	8,556	0	7,680	1,751	4	1,936	2,068	4,797
	センター	9	0	7,285	3	984	151	1,026	125	2,619	68	11	560	427	985
	年度合計	49	1	25,102	121	2,554	623	9,582	125	10,299	1,819	15	2,496	2,495	5,782
1995 (H7)	埋文課	57	1	40,565	37	4,229	675	12,851	257	10,564	3,035	238	2,519	3,354	7,581
	センター	13	0	5,854	9	1,128	182	2,973	6	3,099	270	0	448	450	1,526
	年度合計	70	1	46,419	46	5,357	857	15,824	263	13,663	3,305	238	2,967	3,804	9,107
1996 (H8)	埋文課	66	0	32,101	148	3,454	764	12,136	0	14,364	4,429	10	3,239	3,256	7,629
	センター	12	0	5,015	82	565	245	2,529	618	3,331	284	0	520	1,035	1,725
	年度合計	78	0	37,116	230	4,019	1,009	14,665	618	17,695	4,713	10	3,759	4,291	9,354
1997 (H9)	埋文課	84	1	58,346	56	7,942	1,063	18,594	23	17,119	7,240	44	4,424	3,848	10,889
	センター	8	0	5,088	0	740	134	2,293	355	2,217	391	0	291	616	1,112
	年度合計	92	1	63,434	56	8,682	1,197	20,887	378	19,336	7,631	44	4,715	4,464	12,001
1999 (H11)	埋文課	109	2	54,107	79	5,509	1,193	18,783	1,008	22,461	7,209	84	5,207	4,779	11,675
	センター	3	0	1,279	1	366	44	704	0	991	82	0	87	88	455
	年度合計	112	2	55,386	80	5,875	1,237	19,487	1,008	23,452	7,291	84	5,294	4,867	12,130
2000 (H12)	埋文課	75	5	47,069	71	5,798	1,361	20,717	75	26,016	8,431	84	6,069	5,896	12,968
	センター	11	0	3,851	0	535	51	419	69	790	157	0	897	299	337
	年度合計	86	5	50,920	71	6,333	1,412	21,136	144	26,806	8,588	84	6,966	6,195	13,305
2001 (H13)	埋文課	44	1	30,512	34	4,785	669	8,157	121	10,229	3,011	7	2,263	2,930	5,061
	センター	9	8	6,502	9	841	356	3,277	65	4,281	11	0	1,065	1,039	2,192
	年度合計	53	9	37,014	43	5,626	1,025	11,434	186	14,510	3,022	7	3,328	3,969	7,253
計	埋文課	783	16	463,660	778	50,134	10,859	183,763	2,415	177,236	45,322	719	42,370	42,733	105,739
	センター	151	10	89,744	282	11,188	3,448	34,697	2,284	45,458	3,399	196	8,160	9,276	22,994
	総計	934	26	553,404	1,060	61,322	14,307	218,460	4,699	222,694	48,721	915	50,530	52,009	128,733

註) 年度のSは昭和、Hは平成を示す。1998年度はセンターの増築・改造のため本収蔵は行われなかった。
数の単位は遺物壺棺(個)、コンテナ(箱)、ネガフィルム35mm(本)、その他の写真(コマ、4×5は枚)、図面・写真カード(枚)。

表2 平成13(2001)年度本収蔵一覧

収蔵番号	収蔵区分	調査番号	遺跡名	次数	報告書(集)	登録遺物点数	遺物		ネガフィルム			ポジフィルム			図面		写真カード	調査担当者
							壺棺数	コンテナ数	35mm	6×7	4×5	35mm	6×7	4×5	遺構	遺物		
200101	センター	8045	柏原K遺跡	6	157・190	2,146		114	21			472			516	403	64	山崎純男
200102	埋文課	9642	青木遺跡群	3	583	22		2	2	22		22	15		8	1	14	屋山洋
200103	埋文課	9552	徳永A遺跡	4	583	114		10	4	57		68	45		24	9	37	屋山洋
200104	センター	6909	七隈古墳群	1	124	130		6	15	148					6	9	78	塩屋勝利
200105	埋文課	9942	比恵遺跡群	70	671	830		46	21	58		56	60		24	46	69	井上繭子
200106	埋文課	9955	比恵遺跡群	71	671	614	1	37	16	135		140	126		43	33	94	井上繭子
200107	埋文課	9917	博多遺跡群	116	668	969		98	10	80		163	77		37	33	68	本田浩二郎
200108	埋文課	9941	博多遺跡群	119	668	522		52	5	37		72	34		14	31	41	本田浩二郎
200109	埋文課	9961	那珂遺跡群	74	673	271		52	8	4		166			13	55	29	本田浩二郎
200110	埋文課	9974	井相田A遺跡群	1	年報14	22	2	4	2	18		24	20		3	8	12	本田浩一郎
200111	埋文課	9925	比恵遺跡群	69	671	195		22	6	76		70	78		10	53	48	長家伸
200112	埋文課	9937	三筑遺跡	3	662	20		2	3	59		26	47		10	2	41	長家伸
200113	埋文課	9838	笹原遺跡群	3	662	28		2	6	82		70	79		8	4	61	長家伸
200114	埋文課	9930	箱崎遺跡群	19	664	408		40	5	80		66	80		20	97	49	長家伸
200115	埋文課	9165	東入部遺跡群*	2	685	2,381		107	0	130					99	118	70	濱石・長家・池田・榎本
200116	埋文課	9943	桧原遺跡群	5	679	109		4	1	24		29	14		11	6	14	上角智希
200117	埋文課	9957	日佐遺跡群	2	679	73		4	3	52		28	9		14	7	30	上角・本田
200118	埋文課	9970	博多遺跡群	123	670	582		40	5	106		79	4		12	30	63	上角智希
200119	埋文課	9814	南八幡遺跡群	9	641	553		28	19	323		393	225		80	58	187	小林義彦
200120	埋文課	9858	那珂遺跡群	67	672	683	8	59	27	515		608	478		86	106	317	小林義彦
200121	埋文課	9745	井尻B遺跡群	9	678	14		1	1	6		8	6		6	1	4	宮井善朗
200122	埋文課	9758	井尻B遺跡群	10	678	161		22	2	32		26	32		11	17	17	宮井善朗
200123	埋文課	9956	周船寺遺跡群	13	692	1,977	2	62	26	68		393	52		57	80	82	池田祐司
200124	埋文課	9977	大林遺跡	1	689	404	1	13	8	17		143	12		23	18	23	池田祐司
200125	埋文課	9906	那珂遺跡群	70	673	276		12	7	136		76	30		23	20	61	榎本義嗣
200126	埋文課	9921	箱崎遺跡群	18	664	1,188		70	12	274		120	37		43	87	144	榎本義嗣
200127	埋文課	9935	那珂遺跡群	72	674	183		9	6	44		102	38		23	21	32	阿部・長家
200128	埋文課	9944	三筑遺跡	4	674	5		1	4	36		48	34		14	2	25	阿部・榎本
200129	埋文課	9949	警弥郷B遺跡群	4	679	87		3	8	79		114	21		32	4	50	阿部・榎本
200130	埋文課	8655	有田遺跡群	115	684	477		25	20	162		148	40		78	24	113	山崎龍・米倉
200131	埋文課	9132	有田遺跡群	168	684	386		22	14	199		188	15		43	37	126	山崎龍雄
200132	センター	7944	柏原古墳群	1	125	1,278	8	85	98	108		690			320	99	403	山崎純男
200133	整備課	8747	福岡城跡	9	270他	1,244		236	14	654		536	204		71	175	149	山崎純・吉武
200134	整備課	8829	福岡城跡	10	270他	1,832		802	13	112		398	84		60	193	61	山崎純・吉武
200135	整備課	8910	福岡城跡	13	270他	2,248	1	724	60	204	113	828	265		95	302	232	山崎純・吉武
200136	整備課	9005	福岡城跡	15	270他	1,762		556	12	202		280	86		61	179	95	山崎純・吉武
200137	整備課	9130	福岡城跡	17	355	1,728	1	409	6	250		280	33		49	42	98	山崎純・瀧本
200138	センター	7810	博多遺跡群*	1	543	15		1								5		折尾・池崎
200139	センター	7835	博多遺跡群*	1c	193	7		1										折尾学
200140	センター	8024	博多遺跡群*	8	543他	3										1		折尾・池崎
200141	埋文課	7716	板付遺跡群	23	680	292		36	5	31		7			6	49	20	山崎純・沢・山口・横山
200142	埋文課	7842	板付遺跡群	30	601・640	227	1	58	40	310		109			94	41	214	山崎純・沢・山口
200143	埋文課	7843	板付遺跡群	31	601・640													山崎純・沢・山口
200144	センター	7103	影塚古墳群	1	21	81		8	9			85			9	8	18	三島・藤田
200145	センター	7605	福岡城跡	2	101	2,607		610	141	2,131	17	1,378			176	508	948	折尾・池崎・濱石・山崎
200146	センター	7728	福岡城跡	3	101				8	42	48				4		68	折尾・池崎
200147	センター	8134	福岡城跡	5	101							24						田中寿夫
200148	センター	7009	名子遺古墳群	1	1018	31		1	6			134			24		28	田坂・藤田

収蔵 番号	収 蔵 区 分	調査 番号	遺 跡 名	次数	報告書 (集)	登録遺 物点数	遺 物		ネガフィルム			ポジフィルム			図 面		写 真 カード	調査担当者
							甕棺数	コンテナ数	35mm	6×7	4×5	35mm	6×7	4×5	遺構	遺物		
200149	センター	6905	笹栗遺跡	1	1010	142		9	8	20		159			7	6	29	三島・沢
200150	埋文課	8932	谷口遺跡群	1	269	198		13	113	149	8	1,963	118	7	301	30	282	井澤・野村
200151	埋文課	9015	鷗山A遺跡群	5	312	862	1	41	47	649		898	60		259	129	432	小林・小畑・池田
200152	埋文課	9519	博多遺跡群	90	557	2,241		402	13	118		146	110		29	31	84	佐藤一郎
200153	埋文課	9960	博多遺跡群	121	669	264		39	14	11		28	9		2	17	34	佐藤一郎
200154	センター	7004	宮の前遺跡	3	13	55		5										橋口・高倉
200155	センター	7010	大牟田古墳群	2	14	7		1							3			佐田・松本
200156	埋文課	9664	樋井川A遺跡群	1	682	2,839	7	401	38	1,421		833	94		243	392	785	加藤良・屋山
200157	埋文課	9527	有田遺跡群	180	684	195		13	8	81		92	10		17	30	50	加藤良彦
200158	センター	7833	博多遺跡群	1b	156	193				50	828	1,208	11				556	池崎・濱石
200159	センター	7906	金武古墳群*	4	54							131						二宮忠司
200160	埋文課	9533	西新町遺跡	10	683	293	9	87	31	242		310	230		63	104	190	屋山洋
200161	センター	9416	福岡城跡	26	463		1											吉武学
200162	埋文課	8907	板付遺跡	56	717	733		119	4	812		75			44	208	414	山口謙治

註) 数の単位は遺物甕棺 (個)、コンテナ (箱)、ネガフィルム35mm (本)、その他の写真 (コマ、4×5は枚)、図面・写真カード (枚)。
遺跡名の後に*がついたものは追加収蔵。



写真1 第1記録類収蔵庫(写真類を収蔵)

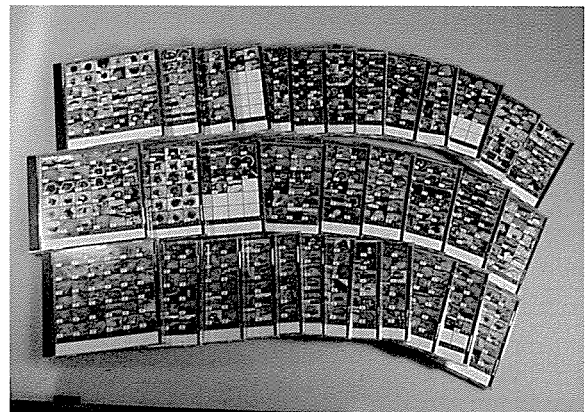


写真2 製作したフォトCD

表3 フォトCD製作遺跡一覧

調査番号	遺跡名	CD数	カット数	C D 番 号	調査番号	遺跡名	CD数	カット数	C D 番 号
6907	板付遺跡群	1	43	8269-3201-1163	8144	田村遺跡群	2	156	9235-3291-4937~4938
7103	影塚古墳群	1	43	8269-3201-1165	8145	田村遺跡群			
7309	板付遺跡群		4		8146	田村遺跡群			
7310	板付遺跡群	1	4	8269-3201-1164	8153	柏原E遺跡	1	43	9235-3291-4936
7311	板付遺跡群		8			8208	有田遺跡群	1	36
7312	高畑遺跡	1	5	8269-3201-1166	8209	有田遺跡群	11		
7313	高畑遺跡		7	〃 〃	8210	有田遺跡群	23		
7706	四箇遺跡群	1	11	9235-3291-0003	8211	有田遺跡群	25		
7707	四箇遺跡群		36		8212	有田遺跡群	44		
7708	四箇遺跡群		14		8213	有田遺跡群	32		
7709	四箇遺跡群		72		9235-3291-0004	8214	有田遺跡群	8	
7834	中尾遺跡群	1	60	9235-3291-0005	8215	有田遺跡群	2	157	9235-3291-4941~4942
7910	原遺跡群	2	181	9235-3291-0006~0007	8217	原遺跡群	1	55	9235-3291-4943
7938	下月隈B遺跡群	1	87	9235-3291-0008	8218	重留古墳群	1	31	9235-3291-4944
7939	天神森遺跡群	1	60	9235-3291-0009	8219	四箇遺跡群	1	100	9235-3291-4945
7944	柏原古墳群	3	239	9235-3291-0010~0012	8222	諸岡B遺跡群		99	8031に合巻
7948	福岡城跡	1	20	9235-3291-4636	8224	博多遺跡群	1	99	9235-3291-4946
8002	拾六町ツイジ遺跡	1	88	9235-3291-4637	8226	那珂君休遺跡群	1	49	9235-3291-4947
8007	有田遺跡群	1	59	9235-3291-4897	8228	比恵遺跡群	2	160	9235-3291-4948~4949
8014	橋本榎田遺跡群	1	90	9235-3291-4905	8230	丸尾古墳群	1	66	9235-3291-4950
8015	四箇遺跡群	1	40	9235-3291-4904	8232	麦野A遺跡群	1	40	9235-3291-4951
8016	三郎丸古墳群	2	168	9235-3291-4906~4907	8233	田村遺跡群	2	127	9235-3291-4952~4953
8018	藤崎遺跡群	3	271	9235-3291-4899~4901	8234	吉武遺跡群	3	300	9235-3291-4954~4956
8022	野多目C遺跡群	1	40	9235-3291-4903	8235	吉武遺跡群	3	230	9235-3291-4957~4959
8026	博多遺跡群	1	21	9235-3291-4902	8301	野方久保遺跡群	2	163	9235-3291-4960~4961
8031	諸岡B遺跡群	2	28	9235-3291-4908~4909	8303	羽根戸原C遺跡	2	147	9235-3291-4962~4963
8032	藤崎遺跡群	1	20	9235-3291-4898	8305	有田遺跡群	2	184	9235-3291-4964~4965
8033	藤崎遺跡群		13		8306	有田遺跡群	1	75	9235-3291-4967
8034	田村遺跡群	1	100	9235-3291-4911	8307	有田遺跡群		2	
8035	田村遺跡群				8308	有田遺跡群	1	83	9235-3291-4966
8041	石丸古川A遺跡	1	95	9235-3291-4910	8309	有田遺跡群	2	200	9235-3291-4968~4969
8042	石丸古川B遺跡	1	84	9235-3291-4912	8310	有田遺跡群	1	99	9235-3291-4970
8043	柏原D遺跡	1	7	9235-3291-4913	8311	有田遺跡群	1	57	9235-3291-4971
8044	柏原F遺跡		19		8315	有田遺跡群	1	50	9235-3291-4972
8045	柏原K遺跡	2	157	9235-3291-4914~4915	8319	藤崎遺跡群	1	53	9235-3291-4973
8046	金隈遺跡	6	586	9235-3291-4916~4922	8321	藤崎遺跡群	1	99	9235-3291-4974
8101	大塚遺跡	1	68	9235-3291-4923	8322	金武城田遺跡	2	123	9235-3291-4975~4976
8102	吉武遺跡群	3	300	9235-3291-4925~4927	8329	比恵遺跡群	2	145	9235-3291-4980~49810
8112	有田遺跡群	1	17	9235-3291-4924	8330	比恵遺跡群	3	252	9235-3291-4977~4979
8114	有田遺跡群	1	60	9235-3291-4928	8334	博多遺跡群	1	16	9235-3291-4982
8116	有田遺跡群	1	45	9235-3291-4929	8344	都地遺跡群	1	62	9235-3291-4983
8120	有田遺跡群	1	13	9235-3291-4930	8404	博多遺跡群	3	294	0175-3302-0232,0251,0572
8121	有田遺跡群	2	175	9235-3291-4931~4932	8406	今宿五郎江遺跡	1	37	9235-3291-4984
8123	有田遺跡群	1	29	9235-3291-4934	8407	今宿五郎江遺跡	1	97	0175-3302-0573
8124	井尻B遺跡群	1	11	9235-3291-4933	8410	青木遺跡群	1	27	9235-3291-4985
8133	有田遺跡群		15	8123に合巻	8412	丸隈山古墳	2	136	0175-3302-0575~0576
8140	板付遺跡群	1	32	9235-3291-4935	8414	新立表古墳群	1	96	0175-3302-0574

2. 保存処理

(1) はじめに

当センターでは昭和57年の開館以来、市内出土埋蔵文化財のうち腐蝕や劣化により資料として扱いにくいものや、通常の保管が困難なもの（主に対象となるのは木製品と金属製品）について、保存のための様々な処置を講じている。当初は直接的な処置のための限られた機器で作業を行ってきたが、平成11年度からは事前調査機器や大型の処理装置などが導入されるとともに施設も一新され、幅広い作業に対応することができるようになり現在に至っている。

(2) 木製品

平成11年度以降、木製品の保存処理は資料の形状、寸法、材質、劣化の状態に応じて、主に3種類の処理方法で対応している。中心となるのはポリエチレングリコール（PEG-4000）を用いた方法であるが、この方法では問題のある資料をその他の方法で行っている。一つは真空凍結乾燥法で、PEG法では処置後の重量が嵩む大型資料を対象としている。但し強度を得るため予めPEGを50%程度含浸後、実施している。もう一つは墨書を有する資料、漆塗膜や金属など別素材と組み合わさっている資料、或いは展示等、活用の都合により処理期間が限られている資料を対象とするもので、これらについてはラクトールを用いる糖アルコール処理法を用いている。

今年度実施した作業は、PEG法と糖アルコール法である。真空凍結乾燥法は昨年度に作業に着手し、その内一部の作業工程が今年度までずれ込んでいるが、昨年度作業実績として計上、報告しているため、今年度の作業には含めていない。

対象となった資料は雀居遺跡4次調査出土の弥生時代を中心とする農具等121点、橋本一丁田遺跡2次調査（調査番号：9327 市報582集）

出土、縄文晩期～弥生前期の農具等34点、梅林遺跡1次調査（調査番号：9742 市報648集）出土の木杭75点等である。詳細は別表の通り。この内、雀居遺跡4次調査出土資料は国庫補助事業により実施した。

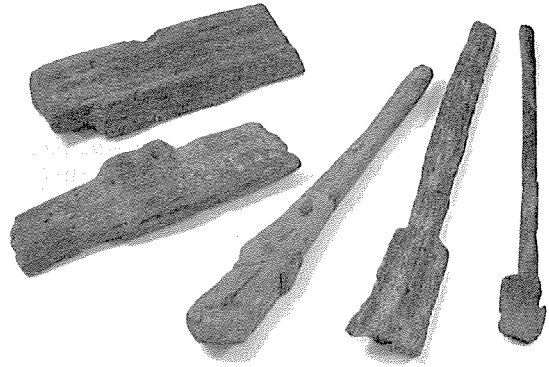


写真1 保存処理された木製品（橋本一丁田遺跡）

各処理法による作業は、資料の洗浄、処理前写真撮影、処理カードの作成といった共通作業以降、次のような工程で行った。

1) PEG法

- ①資料の梱包……不織布で梱包し、メッシュのコンテナ等に納める。
- ②PEG含浸……専用の含浸装置に資料を入れ、注水、加熱（60℃）。温度が安定したら初期濃度20%より置換開始。PEGは処理槽の容量から算出した計画表に基づき、日々適量を投入し、同時に水分蒸発により濃度上昇を図った。濃度は1週間に一度溶液を採取して、溶液の重量と水分蒸発後の重量比較により算出。6月に置換を開始し、約8ヶ月後の2月末頃、濃度が約100%に至る。その後、更に数週間含浸。
- ③遺物の取り上げ～洗浄、PEGの固化……溶液から取り出し後、温水で表面を洗浄し、自然乾燥。
- ④処理後の点検作業……変形、破損の有無を点検し、処理カードに記入。

- ⑤脱色及び表面処理……湯煎したアルコールによる表面洗浄。
- ⑥修復（破損資料のみ）……エポキシ系接着剤による折損部の接合、エポキシ樹脂にマイクロバルーンを混入した材料による欠損の復元

2) 糖アルコール法

- ①溶液の準備……ステンレス製の深型バットにラクチトールを水で溶解。初期濃度は30%程度。恒温乾燥機を80℃に設定し、加熱。
- ②ラクチトールの含浸置換……資料を溶液に入れ、容器の蓋をずらして水分蒸発により溶液濃度の上昇を図る。80℃で限界濃度（80%程度）まで含浸させる。期間は小型資料で10日～2週間程度。
- ③結晶化……資料を溶液から取り出し、表面を温水で軽く洗浄後、ラクチトールの粉末をまぶし、表面のラクチトール結晶を核として結晶化を資料内部まで進め固化させる。資料は50℃に設定した恒温乾燥機に入れるが、この際、温風が資料に直接当たらないように注意する（過乾燥の防止）。結晶化の時間は他施設での実績や経験的なもので判断している（小型資料で1週間～10

日程度）。

- ④洗浄……表面に固着しているラクチトールの結晶を水で洗浄。
- ⑤乾燥……再び50℃の乾燥機で乾燥させる。処理後の資料は温湿度管理された特別収蔵庫において保管している。

(3) 金属製品・その他の遺物

今年度、木製品以外で何らかの作業を行った資料は、23遺跡756点である。表中に示す作業内容の詳細は次の通りである。

クリーニング：鉄製品はグラインダーやエアブラシを使用。銅、青銅製品の一部やこれを基調とする金銅製品など、表層の細かい情報を必要とするものは、顕微鏡下でメス等を用いた腐蝕層の除去やアルコール洗浄を行っている。

樹脂含浸：いずれもアクリル樹脂を使用しているが、塗膜の厚さ等を考慮し、鉄製品にはパラロイドNAD-10を、銅・青銅製品にはパラロイドB-72を用いている。内部まで樹脂を浸透させる必要がある資料については50cm/Hg程度の減圧含浸を実施。

安定化：主に銅・青銅製品について、ベンゾ・トリ・アゾールによる塩類の不活性化を図っている。

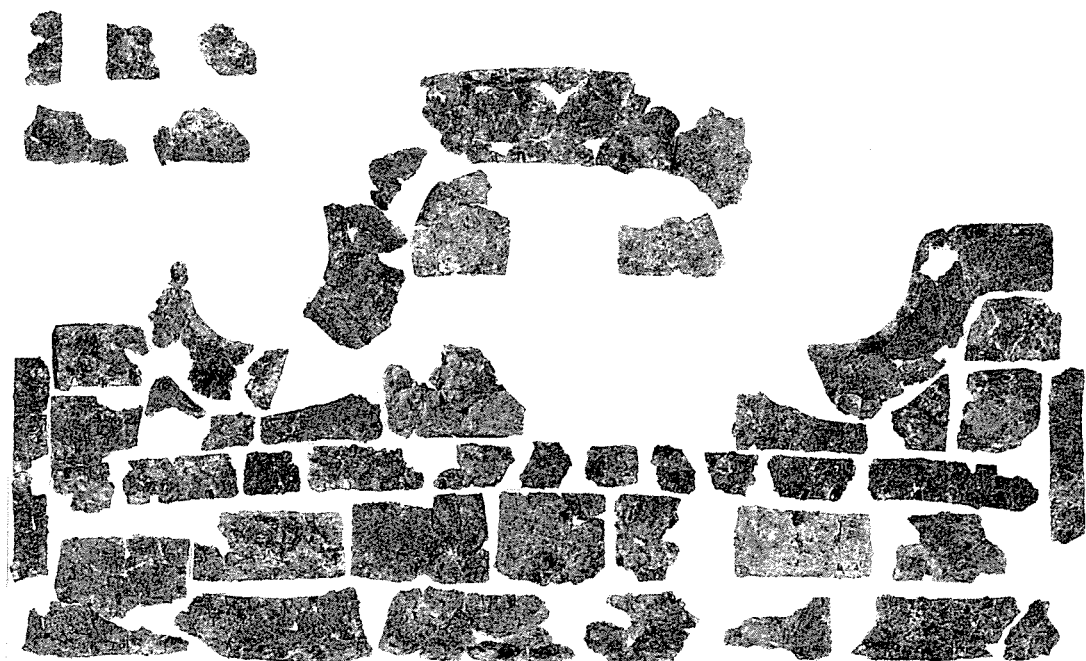


写真2 鋤崎古墳短甲

修復：特に強度を必要としないものはセルローズ系、強度を要する場合はエポキシ系の接着剤を使用。

分析：蛍光X線による材質調査等を指す。

なお透過X線観察等基本的な事前調査については、全てに対して実施しており、表中には特に記していない。

鋤崎古墳の短甲は、これまでその存在を知られていたものの、劣化や埋蔵環境下での石室崩壊によって著しく破損し活用が行えない状況であったが、発掘調査報告書の作成に伴い保存処理と修復が行われ、出土後20年を経過し、ようやく日の目を見ることとなった。この他、鏡や釧などの青銅製品、ガラス製品、顔料の材質調査を行い、その結果を報告書に掲載している。

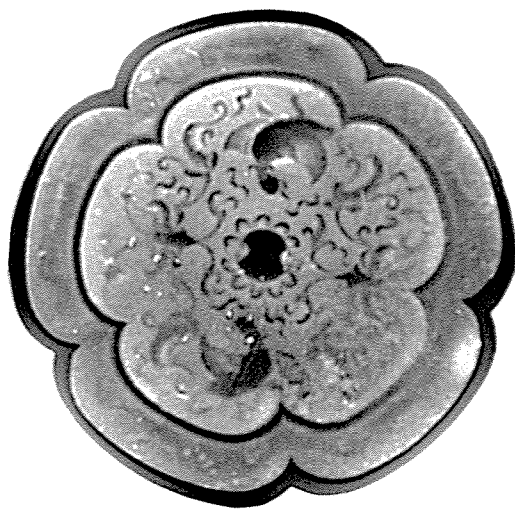


写真3 箱崎21次出土和鏡(上：処理後
下：透過X線像)

また箱崎遺跡21次調査では、12世紀後半の墓地在多数検出され、ここから出土した副葬品の処置を実施した。その中で、和鏡や銅銭に繊維が付着して残存しているものが認められ、これらの顕微鏡による繊維の同定を試み報告を行った。詳細は各福岡市埋蔵文化財調査報告書を参照されたい。

この他、金属器のうち、遺存状況が良好で今後急激な劣化が予測されるにもかかわらず時間的な制約で処理が行えないものについては、脱酸素剤とシリカゲルの機能を併せ持った薬剤を特殊な透明シートでバックする収納システム(三菱ガス化学・RPシステム)による収納作業を進めている。これにより、とりあえず一時的に錆の進行を抑制した状態で保管することができる。なお金属器は処理前・後の区別無く、全て特別収蔵庫で保管している。

なお、鋤崎古墳短甲の保存修復では、部材の位置決定に関する知識は保存処理の範疇にはなく、鹿児島大学助教授橋本達也氏の協力を得た。また箱崎21次出土品の付着繊維同定に際しては、東京国立博物館澤田むつ代氏にご指導頂いた。ここに記して感謝申し上げます。

(4) その他の作業について

埋蔵文化財センターでの作業の他、発掘調査現場での作業も行っている。その内容は表6の通りである。

元岡22次の製鉄炉は、炉の構造が比較的明瞭に分かる資料として複製製作が依頼されたもので、以下のような工程で作業を行った。

- ①作業範囲(炉と排滓土壙を含む約3.5×1.2(m))を設定し、その部分に型取り用のシリコンゴムを塗布。
- ②シリコンゴムだけでは、軟らかく形が保持できないため、ポリエステル樹脂のFRP(繊維強化プラスチック)でバックアップを作る。
- ③樹脂が固化したらバックアップを外し、次にシリコンゴムをめくる。この時、遺構の凹凸情報と表面の土がシリコンゴムに転写されて

くる。

④現場から型を運び出し、埋蔵文化財センターに移送。

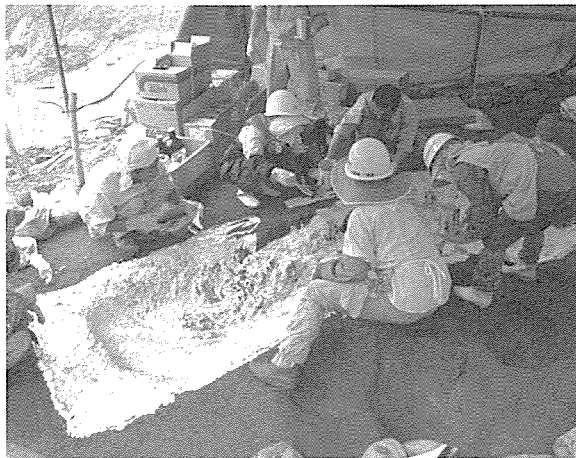


写真4 元岡遺跡製鉄炉複製作業風景



写真5 完成した製鉄炉の複製

⑤出来上がった型に成形用のポリエステル樹脂を塗り、FRPとする。更に補強用の角材を固定。

⑥成形品（複製）を型から取り出すと、凹凸情報と共にシリコンゴムに付いていた土が複製品に再転写される。

⑦土が十分に付いていない部分を補彩し、周囲に枠を取り付けて完成。（この作業は専門の業者に委託）

遺構の複製は切り取りによる保存と比較して多くの利点がある。特に遺構に遺物が付随している状況では、切り取りの場合、遺物は遺構に取り込まれたまま取り出すことは困難であるが、遺構複製では遺物も複製品として製作されることから、実物は別個に活用することが可能となる。また何より切り取りに比べ、移動させる土の量が遙かに少なく済むことから、その

後の取り扱いが非常に楽である。因みに今回のケースでは、製鉄炉の炉底部分は別個に調査が可能であり、また3.5×1.2×0.5(m)程度の大きさであるが、大人4～5人で十分移動できる重量となっている。

ところで、型取り作業にあたっては、折しも梅雨時の大雨による影響をまともに受け、困難な状況であったが、調査担当者松村道博氏をはじめ、現場作業員の方々には多くのご助力を頂いた。ここに記して感謝申し上げます。

また井尻B-17次調査の作業では、住居址に残された土層観察用ベルトの内部から小銅鐸が発見された。

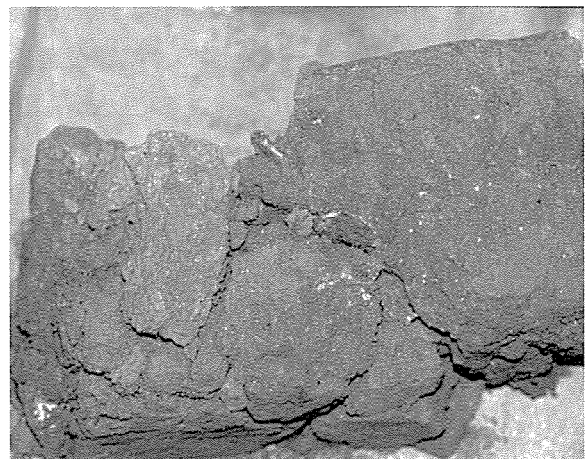


写真6 検出直後の小銅鐸（土塊中に埋まっている）

発見当初は土から一部分だけが覗き、青銅器であることは分かったものの何であるかは不明で、見るからに脆く現場で掘り出すことが困難であったため、土ごと切り取って埋蔵文化財センターに移動。透過X線で土塊内部の確認を実施したところ、環状の取っ手と筒状の部分が見え、遺跡の立地や遺構の時期から、これが小銅鐸であることが判明した。

また、画像の解析から、この小銅鐸が大型の銅鐸に見られるように鱗（側面）を上に向けて埋まっていることも推定されたが、これが意図的なものかどうかは、遺構の状況が不明瞭であったため判然としない。

事前調査の直後、今後の処置について協議が行われ、発掘調査担当者の判断で、すぐに資料を土から掘り出す作業に着手することとなっ



写真7 土塊の透過X線像（小銅鐸が見える）

た。この地域の土はローム土壌で、乾燥が進むと非常に硬くなり干割れが起こることから、湿って軟らかいうちでなければ、土が掘りにくくなるだけでなく、土の変形、収縮の力で資料が破壊される恐れがあった。保存科学の立場だけでは土のことよりも資料に目が奪われ、じっくり時間を掛けて取り出すことを考えてしまいがちである。相当に腐蝕は進んでいたものの、何とか形を残すことができた背景には「現場の土」を知り尽くした発掘担当者の勇気ある決断が大きかったことを付記しておきたい。

現場での作業の他、昨年度に引き続き前年度に行った保存処理の成果を集めた成果展を開催し、これに関連した展示資料の解説講座も保存処理担当者が行った（『甦る出土遺物』展：平



写真8 取り出され保存処理された小銅鐸

成13年7月24日～9月2日、講座：8月4日）。この企画展は、埋蔵文化財センター保存処理業務の一般への良い周知化の機会であり、次年度以降も継続する予定である。

（5）新規装置の導入について

今年度より新たに、赤外線イメージスキャナーが導入された。これはパソコン用スキャナーの光源を赤外光に改造したもので、木簡等、墨書製品の観察に用いる装置である。従来これらの資料観察には赤外線カメラを使用していたが、近年のデジタル技術の進歩による相対的な老朽化や、装置の基本構造上、資料とレンズの間に距離があり画像が劣化する、スケールを写し込まないと撮影した画像の大きさが分からない、赤外光を斜めの一方向から照射するためムラができやすくなるといった問題があった他、近年、鴻臚館や元岡・桑原遺跡群などの調査によって重要な内容を記載した木簡の出土が相次ぎ、より詳細な情報が必要とされていたことも導入の契機となった。

装置の特徴としては次のようなものがある。

- ・平坦な板状の資料であれば対象範囲が読みとり部分に接しているため、鮮明な画像が得られる。
- ・パソコンの設定を調節することにより、画像の解像度が自由に選択できる。
- ・コピー機と同じ原理なので、対象物をそのままの大きさと読みとることができる。

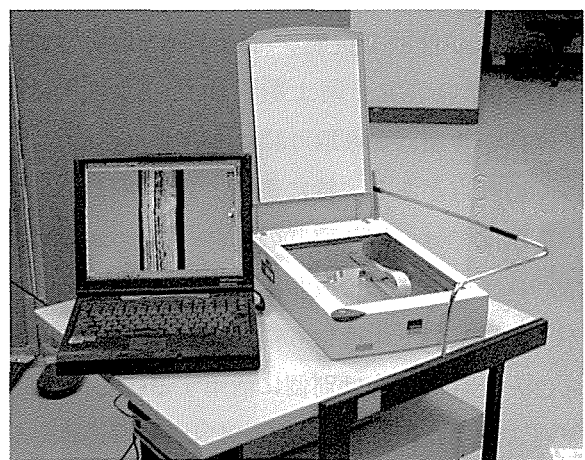


写真9 赤外線イメージスキャナー

- ・光源を走査するので、赤外光が資料に均一に当たる。
- ・デジタル画像として、そのままパソコンで加工や保存が可能である。



写真10 左：赤外線カメラの画像
右：赤外線イメージスキャナ画像

曲面や極端な凹凸を有する資料や、大きな資料には使えないという欠点もあるが、出土資料の多くはこの装置に収まるものがほとんどで、逆にスキャナーで取り扱うことのできない資料には、従来の赤外線カメラを使うことが可能なため、調査の幅が格段に広がることとなった。

今年度は元岡遺跡群出土品の他、下月隈C遺跡7次調査から出土した「皇后宮職」について書かれた木簡の調査にこの装置を使用し、不鮮明な部分の文字解読に威力を発揮した。

(6) 外部からの施設利用による成果

平成11年度に導入された様々な文化財用事前調査機器類は、九州地域の埋蔵文化財関連施設では初めて導入されるものもあり、周辺地域自治体等を中心に利用の問い合わせが多く寄せられてきたため、利用基準を定め、この範囲内で施設使用を許可する事としている。今年度の利用の中で注目すべき成果事例2件について記す。

前原市教育委員会による同市三坂七尾遺跡出土品の調査では、弥生時代の中国貨幣「貨泉」が発見された。この遺跡では弥生と中世の墓地が混在し、土器の出土しない土壌墓の時期決定が困難な部分もあった。このうち調査区の北側

で検出された54号土壌墓からは、ガラス小玉430個と、銅銭が出土していたが、この場所が弥生時代の墓地群の北縁にあたり、東隣には中世の土壌や墓地が近接していたことや、「銅銭」が発見していることなどから、この土壌墓も当初中世のものと考えられていた。しかし蛍光X線によるガラス玉の材質調査では、成分がカリガラスと呼ばれる弥生時代のガラスのものであったため、錆に覆われ銭文が不明であった銅銭についても改めて透過X線調査を実施したところ、貨泉であることが判明したものである。貨泉は日本でこれまでに西日本を中心に40カ所程の遺跡から約70枚が発見されているが、墓の副葬品として明らかなものはほとんど無く、貴重な発見例となった。

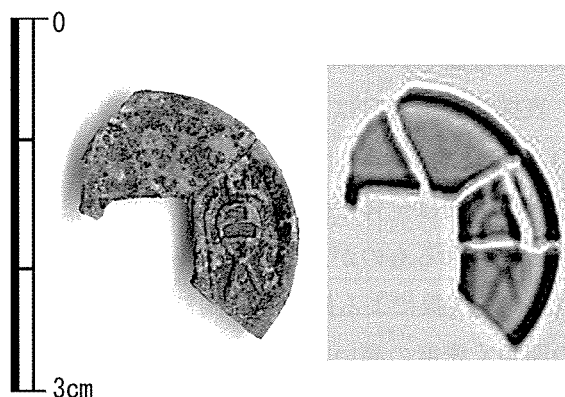


写真11 前原市三坂七尾遺跡から発見された「貨泉」と、その透過X線像

また、長崎県鷹島町で出土した元寇に関連するものと見られる遺物についても当センターの機器を利用した調査が行われた。特に元軍が使用したとされる陶製投弾「てつほう」は、この年NHKの大河ドラマ「北条時宗」が放映され、それに関連した「中世博多展」が開催される中での発見となり、大きな話題となったもので、その調査も注目を集めた。「てつほう」は今年度出土の完形品(写真12)と、平成5年に表採され、今回の出土により「てつほう」であることが裏付けられた破損品について、内容物の調査が行われた。資料は大きさ14cmほどの球形で、厚さ1.5cm程度の陶製である。上部には直径4cmほどの穴があいており、ここから火薬等を詰めたと推定される。

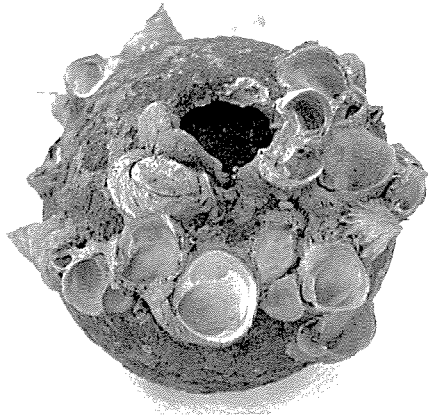


写真12 海底から発見された「てっぽう」



写真13 以前に表採されていた「てっぽう」の破断面

完形品の「てっぽう」には内部に砂状の物質が詰まっており、この中に火薬や炸裂したときの効果を高める散弾の存在が想定されが、透過X線では特に特徴的なものは写らず、内容物の材質調査でも残念ながら火薬であることを示す成分は確認されていない。

表採の破損資料は下半分が失われているものの、大きさや材質、形状は出土品に共通しており、破断面は全体が鉄錆に覆われ、所々に鉄の塊と思われるものが露出している(写真13)。これは透過X線による観察で、内部に数cm角程度の四角く密度の高い塊が多数入っていることが確認され(写真14)、更にこの物質の材質を調べたところ、鉄であることが明らかになったことから、これが散弾の役目をするために詰められていたものであれば、破裂するだけでなく、より大きな効果(被害)があったものと考えられている。

この様に弥生時代の「伊都国」の関連資料や、中世の元寇に関するものは本市にも深く関連す

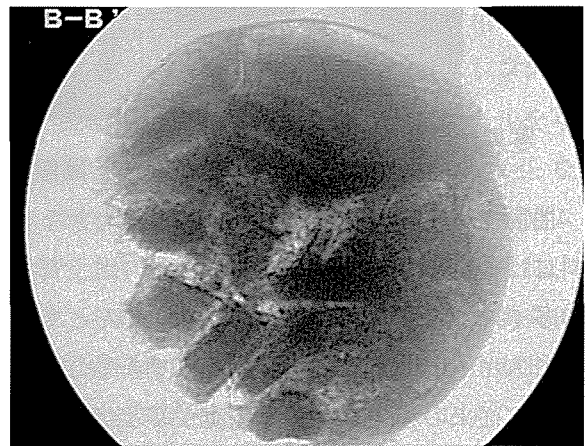


写真14 写真13の透過X線像

る資料である。また上記事例に限らず、これら周辺自治体との連携は本市の文化財関連業務にも多くの情報を与えるだけでなく、文化財全般の保存に大きく寄与すると考えられるものであり、今後も積極的に進めていきたい。

なお最後になりましたが、今年度も保存処理作業では前記の方々以外にも多くの方々にご指導、ご協力を頂きました。ここに全てを記すことはできませんでしたが、深く御礼申し上げます。(文責 比佐陽一郎・片多雅樹)

表4 2001年度保存処理木器一覧

処理No	遺物No	資料名	時代	報告書Fig	処理方法
雀居4次 (調査番号: 9241 市報406集)					
14907	60020	平鋏	縄文晩期		PEG
14908	60035	木錘(つちのこ)	弥生～古墳前期		PEG
14909	60041	砧(きぬた)	弥生後期後半		PEG
14910	60042	横槌	弥生後期後半		PEG
14911	60044	又鋏	弥生後期後半		PEG
14912	60046	杓文子	弥生後期後半		PEG
14913	60047	板材	弥生後期後半		PEG
14914	60050	木甲?	弥生後期後半		糖アルコール
14915	60051	竪杵	弥生後期後半		PEG
14916	60054	又鋏	弥生後期後半		PEG
14917	60062	不明	弥生後期後半		PEG
14918	60064	又鋏	弥生後期後半		PEG
14919	60065	平鋏	弥生後期後半		PEG
14920	60067	加工材	弥生後期後半		PEG
14921	60071	砧(きぬた)	弥生後期後半		PEG
14922	60074	板材片 鋏か?	弥生後期後半		PEG
14923	60076	杓文子	弥生後期後半		PEG
14924	60079	平鋏	弥生～古墳前期		PEG
14925	60080	横槌	弥生後期後半		PEG
14926	60083	曲物底部			PEG
14927	60086	砧(きぬた)	弥生後期後半		PEG
14928	60088	板材	弥生後期後半		PEG
14929	60092	板材	弥生後期後半		PEG
14930	60093	鋏の頭部	弥生後期後半		PEG
14931～14933	60094～60096	加工材 (3点)	弥生後期後半		PEG
14934	60098	加工材 建築部材か?	弥生後期後半		PEG
14935	60099	砧(きぬた)	弥生後期後半		PEG
14936	60100	剝物	弥生後期後半		PEG
14937	60106	剝みのある部材	弥生後期後半		PEG
14938	60112	又鋏	弥生前期後半		PEG
14939・14940	60113・60114	砧(2点)	弥生前期～後期		PEG
14941・14942	60121・60123	又鋏(2点)	弥生前期～後期		PEG
14943	60126	加工材	弥生後期後半		PEG
14944	60129	鋏	弥生後期後半		PEG
14945	60142	馬鋏 刃先か?	弥生後期後半		PEG
14946	60149	加工材	弥生後期後半		PEG
14947	60151	横槌	弥生後期後半		PEG
14948	60153	加工板材(角棒)	弥生後期後半		PEG
14949	60154	又鋏(二又)	弥生後期後半		PEG
14950	60156	横槌	弥生～古墳前期		PEG
14951	60158	加工材	弥生後期後半		PEG
14952	60162	平鋏	弥生後期		PEG
14953	60165	鋏	弥生後期		PEG
14954	60166	板材(穴あき)	弥生後期		PEG
14955	60167	平鋏	弥生後期		PEG
14956	60171	鋏	弥生後期後半		PEG
14957	60173	えぶり未成品	縄文晩期		PEG
14958	60202	不明製品(柄付)	古墳前期前半		PEG
14959	60204	槽(把手付)	縄文晩期		PEG
14960	60210	脚付容器	弥生前期～後期		PEG
14961	60236	えぶり	弥生後期後半		PEG
14962	60238	平鋏の先	弥生後期後半		PEG

処理No	遺物No	資料名	時代	報告書 Fig	処理方法
14963	60240	又鋏	弥生後期後半		PEG
14964	60249	二又鋏	弥生後期後半		PEG
14965	60254	又鋏	弥生後期後半		PEG
14966	60255	平鋏	弥生後期後半		PEG
14967	60265	?	弥生後期後半		PEG
14968	60267	鋏(短柄)完形	弥生後期後半		PEG
14969	60268	竪杵	弥生後期後半		PEG
14970	60271	加工板材(鋏)	弥生後期後半		PEG
14971	60283	建築部材?	弥生後期後半		PEG
14972	60285	平鋏	弥生後期後半		PEG
14973	60286	加工木材	弥生後期後半		PEG
14974	60287	長脚剝物底	弥生後期後半		PEG
14975~14977	60288~60290	鋏頭部(3点)			PEG
14978	60291	又鋏の刃体			PEG
14979	60293	細棒状木製品			PEG
14980	60294	農具柄	弥生後期後半		PEG
14981	60295	独楽状木製品	弥生後期後半		PEG
14982	60298	溝切棒状木製品	弥生後期後半		PEG
14983	60299	目盛付棒材	弥生後期後半		PEG
14984	60300	細棒状木製品	弥生後期後半		PEG
14985	60302	板付きの三又鋏	弥生後期		PEG
14986	60312	木の又の加工材	縄文晩期		PEG
14987	60314	細棒状木製品	弥生後期後半		PEG
14988	60316	農具柄の端部			PEG
14989	60317	二又鋏の一部			PEG
14990	60318	楔状加工品	弥生~古墳前期		PEG
14991	60319	鋏の柄先端	弥生後期後半		PEG
14992	60320	柄の端部か?	弥生後期後半		PEG
14993	60321	掘棒?	弥生後期後半		PEG
14994	60322	面取加工棒状木製品			PEG
14995	60323	把手付盤?	弥生後期後半		PEG
14996・14997	60325・60326	面取加工棒状木製品(2点)	弥生後期後半		PEG
14998	60327	杉板材か?	弥生~古墳前期		PEG
14999	60328	又鋏の一部			PEG
15000	60329	諸手鋏	縄文晩期		PEG
15001・15002	60332・60333	槌子(ツチノコ)(2点)	弥生~古墳前期		PEG
15003	60336	加工板材	弥生後期後半		PEG
15004	60339	加工板材	弥生~古墳前期		PEG
15005	60343	竪杵	弥生前期後半		PEG
15006	60344	容器未完成品	弥生前期後半		PEG
15007	60350	削りのある板材	弥生前期後半		PEG
15008	60352	農耕具柄	弥生後期後半		PEG
15009	60353	三角加工材	弥生後期後半		PEG
15010	60356	農耕具柄			PEG
15011	60357	鹿笛状木製品			PEG
15012	60359	削りのある板材			PEG
15013	60360	頭部に加工のある棒材			PEG
15014	60366	砧(きぬた)	弥生後期後半		PEG
15015	60367	方形有孔板材	弥生後期後半		PEG
15016	60369	平鋏	弥生後期後半		PEG
15017	60371	円形材・礎板	縄文晩期~弥生後期後半		PEG
15018	60379	工作台	弥生後期後半		PEG
15019	60382	建築材?(切込有り)	弥生後期後半		PEG
15020	60386	木甲?	弥生後期後半		糖アルコール

処理No	遺物No	資料名	時代	報告書Fig	処理方法
15021	60387	平鋏	弥生後期後半		PEG
15022	60388	三叉鋏	弥生後期後半		PEG
15023	60391	諸手鋏半製品	縄文晩期		PEG
15024	60397	鉄斧柄	弥生後期後半		PEG
15025	60403	砧	弥生後期後半		PEG
15026	60404	木甲?	弥生後期後半		糖アルコール
15027	60410	三叉鋏	弥生後期後半		PEG
橋本一丁田2次 (調査番号: 9327 市報582集)					
15050	30001	諸手鋏	縄文晩期～弥生前期前半	73-1	PEG
15051	30002	エブリ	縄文晩期～弥生前期前半		PEG
15052	30003	加工材	縄文晩期～弥生前期前半	76-20	PEG
15053	30004	諸手鋏未製品	縄文晩期～弥生前期前半	75-12	PEG
15054	30005	諸手鋏未製品	縄文晩期～弥生前期前半	73-2	PEG
15055・15056	30006・30007	木鋏 (2点)	縄文晩期～弥生前期前半	76-17・18	糖アルコール
15057	30008	栓	縄文晩期～弥生前期前半	76-19	PEG
15058	30009	鎌柄未製品?	縄文晩期～弥生前期前半	76-13	PEG
15059	30010	敲打具	縄文晩期～弥生前期前半	76-14	PEG
15060	30011	鋤	縄文晩期～弥生前期前半	73-8	PEG
15061	30012	建築材	縄文晩期～弥生前期前半	79-53	PEG
15062	30013	建築材	縄文晩期～弥生前期前半	79-56	PEG
15063	30014	不明	縄文晩期～弥生前期前半	80-58	PEG
15064	30015	矢板	縄文晩期～弥生前期前半	80-59	PEG
15065・15066	30018・30020	建築材(柱) (2点)	縄文晩期～弥生前期前半	78-47・48	PEG
15067	30025	割材	縄文晩期～弥生前期前半	77-24	PEG
15068	30029	丸杭	縄文晩期～弥生前期前半	77-29	PEG
15069～15072	30039～30042	矢板杭 (4点)	縄文晩期～弥生前期前半	80-61～64	PEG
15073	30053	石斧柄	縄文晩期～弥生前期前半	76-16	PEG
15074	30054	長柄鋤	縄文晩期～弥生前期前半	Jul-74	PEG
15075	30055	石斧柄台部	縄文晩期～弥生前期前半	76-15	PEG
15076	30056	道具未製品	縄文晩期～弥生前期前半	74-10	PEG
15077	30057	加工部材	縄文晩期～弥生前期前半	77-35	PEG
15078	30058	加工部材	縄文晩期～弥生前期前半	77-34	PEG
15079	30059	エブリ	縄文晩期～弥生前期前半	73-3	PEG
15080	30060	農具柄	縄文晩期～弥生前期前半		PEG
15081	30061	建築材(柱)	縄文晩期～弥生前期前半	79-50	PEG
15082	30062	農具未製品	縄文晩期～弥生前期前半	74-9	PEG
15083	30063	農具未製品	縄文晩期～弥生前期前半		PEG
梅林1次 (調査番号: 9742 市報648集)					
15084	20002	杭	(古墳)～近世	59-80	PEG
15085	20004	横木	(古墳)～近世	57-57	PEG
15086	20005	杭	(古墳)～近世		PEG
15087	20007	杭	(古墳)～近世	55-36	PEG
15088	20009	杭	(古墳)～近世		PEG
15089	20015	横木	(古墳)～近世	57-61	PEG
15090	20019	杭	(古墳)～近世	60-82	PEG
15091	20020	杭	(古墳)～近世	58-79	PEG
15092	20021	杭	(古墳)～近世	58-69	PEG
15093	20022	杭	(古墳)～近世	57-58	PEG
15094	20025	杭	(古墳)～近世		PEG
15095・15096	20026・20027	杭 (2点)	(古墳)～近世	54	PEG
15097・15098	20029・20030	杭 (2点)	(古墳)～近世		PEG
15099	20036	杭	(古墳)～近世	55-32	PEG
15100	20043	杭	(古墳)～近世		PEG
15101	20045	ハツリ	(古墳)～近世		PEG

処理No	遺物No	資料名	時代	報告書 Fig	処理方法
15102	20047	横木	(古墳)～近世	58-67	PEG
15103	20048	横木	(古墳)～近世	58-64	PEG
15104	20049	杭	(古墳)～近世		PEG
15105	20050	横木	(古墳)～近世	58-63	PEG
15106・15107	20051・20053	杭(2点)	(古墳)～近世		PEG
15108	20054	杭	(古墳)～近世	58-65	PEG
15109	20055	杭	(古墳)～近世	55-40	PEG
15110	20057	杭	(古墳)～近世		PEG
15111	20058	杭	(古墳)～近世	55-34	PEG
15112	20059	横木	(古墳)～近世	58-72	PEG
15113	20060	杭	(古墳)～近世	58-66	PEG
15114・15115	20061・20062	杭(2点)	(古墳)～近世		PEG
15116・15117	20063・20064	杭(2点)	(古墳)～近世	57-59・60	PEG
15118	20065	杭	(古墳)～近世	59-75	PEG
15119	20067	杭	(古墳)～近世	55-38	PEG
15120	20068	杭	(古墳)～近世	55-37	PEG
15121	20069	杭	(古墳)～近世	55-31	PEG
15122	20070	杭	(古墳)～近世	55-33	PEG
15123	20071	杭	(古墳)～近世	60-81	PEG
15124	20072	杭	(古墳)～近世	60-89	PEG
15125	20073	杭	(古墳)～近世	56-49	PEG
15126	20074	杭	(古墳)～近世	57-56	PEG
15127	20075	杭	(古墳)～近世		PEG
15128	20076	不明	(古墳)～近世	57-55	PEG
15129	20078	杭	(古墳)～近世		PEG
15130	20079	杭	(古墳)～近世	55-35	PEG
15131	20080	杭	(古墳)～近世		PEG
15132	20082	杭	(古墳)～近世	57-62	PEG
15133	20083	杭	(古墳)～近世	56-45	PEG
15134	20084	杭	(古墳)～近世		PEG
15135	20085	杭	(古墳)～近世	55-43	PEG
15136	20086	横木	(古墳)～近世	58-68	PEG
15137	20088	杭	(古墳)～近世	56-48	PEG
15138	20092	杭	(古墳)～近世	56-46	PEG
15139	20094	杭	(古墳)～近世	60-88	PEG
15140	20095	横木	(古墳)～近世	59-74	PEG
15141	20097	杭	(古墳)～近世	55-39	PEG
15142・15143	20101・20102	杭(2点)	(古墳)～近世		PEG
15144・15145	20201・20202	白(2点)	(古墳)～近世	53-29・30	PEG
15146	20301	筆柄	(古墳)～近世	61-103	糖アルコール
15147～15151	20401～20405	杭(5点)	(古墳)～近世	40-27～31	PEG
15152	20406	竹	(古墳)～近世		PEG
15153	20501	杭	(古墳)～近世	40-32	PEG
15154	20502	杭	(古墳)～近世	40-33	PEG
15155	20504	杭	(古墳)～近世	40-35	PEG
15156	20505	杭	(古墳)～近世	40-36	PEG
15157	20507	杭	(古墳)～近世	40-37	PEG
15158	20508	杭	(古墳)～近世	40-34	PEG
元岡20次(調査番号:200001 未報告)					
15171		舟形	古代		糖アルコール

表5 2001年度保存処理金属器一覧

処理No	遺物No	資料名	材質	時代	報告書Fig	
博多4次 (調査番号: 7930 市報543集)						
15170	975	ガラス埴塙	ガラス	中世	111-768	分析・樹脂強化
鋤崎古墳 (調査番号: 8202 市報730集)						
16869		短甲	鉄	古墳中期(5C前半)	77-79	クリーニング・樹脂強化
16870		ガラス丸玉	ガラス	古墳中期(5C前半)	68-66	クリーニング・分析
16871-16898		赤色顔料28点	その他	古墳中期(5C前半)		分析
有田124次 (調査番号: 8713 市報725集)						
16639	3001	不明板状品	鉄	古墳後期(6C後半~7C初頭)	35-375	クリーニング・樹脂強化
16640	3002	不明U字形	鉄	古代(7C~8C)	35-378	クリーニング・樹脂強化
16641	3003	鏃?	鉄	古代(平安頃)?	35-379	クリーニング・樹脂強化
16642	3004	不明棒状品	鉄	古墳後期~中世	35-380	クリーニング・樹脂強化
16643	3007	不明板状品	鉄	古墳後期~中世	35-377	クリーニング・樹脂強化
16644	3009	馬具?(環状)	鉄	古墳後期~中世	35-383	クリーニング・樹脂強化
16645	3008	馬具?(鉤棒状)	鉄	古墳後期~中世	35-382	クリーニング・樹脂強化
16646	3013	釘?	鉄	古墳後期~中世	35-386	クリーニング・樹脂強化
16647	3011	不明	鉄	古墳後期~中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16648	3012	鏃?	鉄	古墳後期~中世	35-385	クリーニング・樹脂強化
福岡城址13次・鴻臚館5次 (調査番号: 8910 市報270・355集)						
16649	31016	ガラス小玉(金箔入り)	ガラス	不明	未図化	クリーニング・分析
16650	31020	金小片	その他金属	不明	未図化	クリーニング・分析
飯倉H・梅林古墳 (調査番号: 8914 市報240集)						
16651	38	管玉	ガラス	古墳後期(5C末~6C前半)	14-38	クリーニング・分析
16652	39	小玉	ガラス	古墳後期(5C末~6C前半)	14-39	クリーニング・分析
16653	40	小玉	ガラス	古墳後期(5C末~6C前半)	14-40	クリーニング・分析
16654	41	小玉	ガラス	古墳後期(5C末~6C前半)	14-41	クリーニング・分析
博多62次 (調査番号: 8963 市報397集)						
15165	20353	銅銭(崇寧重寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化・安定化
15166	20502	銅銭(貨泉)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化・安定化
16655	20704	銅銭(皇宋通寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング
16656	20720	銅銭(明道元寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング
16657	20739	銅銭(文□通寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング
16658	21193	銅銭(開元通寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング
16659	21310	銅銭	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング
16660	21311	銅銭(至和元寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング
16661	21328	銅銭(周元通寶)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング
16662	23028	釘	鉄	中世	未図化	クリーニング
16663	23033	釘	鉄	中世	未図化	クリーニング
板付61次 (調査番号: 9051 市報410集)						
14159	63	彩文土器	その他	弥生前期	29-63	クリーニング・分析
大原D3次 (調査番号: 9265 市報481集)						
16664	5281	ガラス玉	ガラス		107-281	クリーニング・分析
博多80次 (調査番号: 9309 市報448集)						
15167	10000	和鉄	鉄	中世	166-690	クリーニング・樹脂強化・修復
橋本一丁田2次 (調査番号: 9327 市報582集)						
15163	30115	木の実	植物遺体		未図化	糖アルコール
藤崎27次 (調査番号: 9629 市報573集)						
16665	6	銅鏃	銅・青銅	古墳前期	18-6	クリーニング・樹脂強化・安定化
16666	7	銅鏃	銅・青銅	古墳前期	18-7	クリーニング・樹脂強化・安定化
16667	69	銅鏃	銅・青銅	弥生~古墳	20-69	クリーニング・樹脂強化・安定化
元岡2次・桑原柿ヶ元 (調査番号: 9659 市報722集)						
16668		不明鉄器(鉄滓か?)	鉄滓		未図化	
博多111次 (調査番号: 9836 市報711集)						
16673		メダイ鋳型	その他	中世末~近世初頭(16C)	40	分析
17085-17667		銅銭583点	銅・青銅	中世		クリーニング
17668-17733		銅製品66点	銅・青銅	中世		
17734		刀装具	銅・青銅	中世	20-8	クリーニング・樹脂強化・安定化
箱崎16次 (調査番号: 9853 市報703集)						
16669	3001	不明工具	鉄	中世(13C代)	10-14	クリーニング・樹脂強化
16670	3002	銅銭(祥符元寶)	銅・青銅	中世(13C代)	10-13	クリーニング・樹脂強化・安定化
16671	3003	銅銭(太平通寶)	銅・青銅	中世(13C代)	10-12	クリーニング・樹脂強化・安定化
16672	3004	銅銭(紹聖元寶)	銅・青銅	中世(14C前半)	17-32	クリーニング・樹脂強化・安定化
大原D6次 (調査番号: 9901 市報732集)						
16674		鉛錘?	その他金属(鉛)	古代	11-31	クリーニング・分析・樹脂強化
16675		不明板状品	鉄	古代	60-549	クリーニング・樹脂強化
16676		釘?	鉄	古代	27-192	クリーニング・樹脂強化

処理No	遺物No	資料名	材質	時代	報告書Fig	
16677		不明板状品	鉄		未図化	クリーニング・樹脂強化
16678		刀子片	鉄		未図化	クリーニング・樹脂強化
16679		獣脚形	鉄		未図化	クリーニング・樹脂強化
16680		不明板状品	鉄		未図化	クリーニング・樹脂強化
立花寺B6次 (調査番号: 9915 市報702集)						
16681		鉄刀	鉄	古墳後期	未図化	樹脂強化
那珂73次 (調査番号: 9948 市報713集)						
16682		手鎌	鉄	弥生終末	53	クリーニング・樹脂強化
16683		銅銭	銅・青銅	中世	61-433	クリーニング・樹脂強化・安定化
16684		不明板状品	銅・青銅	中世	61-435	クリーニング・樹脂強化・安定化
16685		釘	鉄	中世	61-434	クリーニング・樹脂強化
下山門敷町3次 (調査番号: 9950 市報727集)						
16686		釘?	鉄	古墳前期	未図化	クリーニング・樹脂強化
下山門乙女田2次 (調査番号: 9966 市報727集)						
16687		釘	鉄	中世	64-112	クリーニング・樹脂強化
16688		釘?	鉄	中世	77-249	クリーニング・樹脂強化
16689		不明鉄片	鉄	中世	79-267	クリーニング・樹脂強化
16690		不明鉄器 (棒状)	鉄	中世	81-305	クリーニング・樹脂強化
16691		不明鉄片	鉄	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
16692		銅銭	銅・青銅	中世	73-192	クリーニング・樹脂強化・安定化
16693		煙管 (吸口)	銅・青銅	中世	55-24	クリーニング・樹脂強化・安定化
16694		鈴?	銅・青銅	中世	59-62	クリーニング・樹脂強化・安定化
16695		縁飾り金具	銅・青銅	中世	79-266	クリーニング・樹脂強化・安定化
16696		環状飾り金具	銅・青銅	中世	55-23	クリーニング・樹脂強化・安定化
16697		不明銅器 (管状)	銅・青銅	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化・安定化
16698		馬歯	動物遺体	中世	未図化	クリーニング・樹脂強化
野方平原1次 (調査番号: 9975 市報729集)						
16699		赤色土 (顔料?)	その他	弥生終末~古墳初頭	未図化	分析
箱崎21次 (調査番号: 9978 市報705集)						
16700	355	和鏡	銅・青銅	中世 (12C中頃)	41-355	クリーニング・分析・樹脂強化・安定化
16701	372	銅銭 (元重寶)	銅・青銅	中世 (12C中頃)	43-372	クリーニング・樹脂強化・安定化
16702	373	銅銭 (聖宋元寶)	銅・青銅	中世 (12C中頃)	43-373	クリーニング・樹脂強化・安定化
16703	374	和鏡	銅・青銅	中世 (12C中頃)	43-374	クリーニング・分析・樹脂強化・安定化
16704	385	銅銭 (淳化元寶)	銅・青銅	中世 (12C中頃)	44-385	クリーニング・樹脂強化・安定化
16705	386	銅銭 (至和元寶)	銅・青銅	中世 (12C中頃)	44-386	クリーニング・樹脂強化・安定化
16706	436	和鏡	銅・青銅	中世 (12C中頃)	46-435	クリーニング・分析・樹脂強化・安定化
井尻B16次 (調査番号: 200004 市報721集)						
16707		短刀	鉄	古代末~中世		クリーニング・樹脂強化
井尻B17次 (調査番号: 20027 未報告)						
16868		小銅鐸	銅・青銅	弥生後期後半		クリーニング・樹脂強化・安定化

表6 2001年度現場作業記録一覧

	調査名	調査No.	所在地	時代	作業内容	作業開始	作業終了
1	元岡22次	200033	西区元岡	古代 (8C後半?)	遺構複製	20010621	20010628
2	旧冷泉小学校跡地	—	博多区冷泉町		石碑保存処理打合せ		20010515
3	有田202次	200117	早良区南庄	古墳前期?	青銅器保存処理打合せ		20010725
4	元岡遺跡群各調査地点		西区元岡		金属器保存処理打合せ	20010913	20010913
5	井尻B-17次	200027	南区井尻	弥生	鋳造関連遺物保存処理打合せ	20010920	20010920
6	鴻臚館19次 (福岡城址47次)	200109	中央区城内	古代~近代	遺物取り上げ	20011120	20011120
7	井尻B-19次	200027	南区井尻	弥生	青銅器保存処理打合せ		20020111

福岡市内出土の錫製品について

はじめに

遺跡から出土する金属製品を材質別に見ると、その大半が鉄もしくは銅の合金である青銅製品で占められている。しかし、それ以外の金属製品も少なからず存在し、用いられる材質も様々で、多様な金工技術の存在を垣間見ることができる。

これまで鉄や青銅器は数多く調査の俎上に挙げられてきたが、それ以外の材質の金属製品は、それに比べると十分な調査が行われているとは言えない状況である。これには出土例の稀少さは勿論であるが、それ以前に肉眼観察による経験的な判断には限界があり、自ずと議論に至らず埋もれている資料が少なからずあるものと考えられる。更には経験的な推定結果の一人歩きによって無用の混乱を来している部分も見受けられることもあり、この状況を打開するため、非鉄、非銅合金の材質調査が必要と思われる。今回はその端緒として福岡市内で出土した資料の内、特に弥生時代から古墳時代の錫製品について、集成と材質調査を中心に整理を試みた。

錫の概要とこれまでの研究

まず錫という金属についての基本事項であるが、『金属の百科事典』によれば、「銀白色の金属で、密度 $7.298\text{g}/\text{cm}^3$ 、融点は 231.9°C と低く、鉛に次いで軟らかい。」(永田1999)とある。考古学では単体よりも青銅の合金成分として知られ、その利用は紀元前3000年にまで遡るとされている。吉野ヶ里遺跡では弥生時代の遺構から高純度の錫塊が出土しており、青銅器生産に利用されたものと考えられている。現代ではブリキ板として銅板にメッキされたり、鉛との合金によるハンダ、また人体に無害である性質から食器などに加工され利用されている。

これまでに日本で用いられた錫製品については、東北地方の古代墳墓から出土する装身具類

について、それぞれの発掘調査報告書で材質調査結果が報告されている他、永嶋正春氏による鉄芯に錫板を巻いた古墳時代の耳環の発見などがある(永嶋1991)。また成瀬正和氏は正倉院御物の調査をきっかけとして、出土品や海外の事例まで含め幅広く錫工芸品についての調査を行い、その結果をまとめている(成瀬1989)。しかし福岡市内の資料については錫製品であることが推測、或いは指摘されながらも、これまでにまとまった形の調査、研究報告は無く、出土例のみが蓄積されている現状がある。

今回の調査内容

現在までに確認した市内出土の錫製品は別表に示すとおりである。これらは発掘調査の段階で既に認識されていたものや、過去、並びに現在の保存処理担当者が作業の段階で発見したものなど、色々なケースにより集められた。十分に注意を払っているものの、これ以外に40,000点以上に及ぶ金属製品の中で、他にも埋もれている可能性は十分に考えられる。

材質調査は当センターの微量領域用エネルギー分散型蛍光X線分析装置(エダックス: Eagle- μ probe)を中心に、補助として大型資料用波長分散型の装置(フィリップス: PW-2400)を用い、非破壊によって以下の条件で行った。

エネルギー分散型装置

対陰極: モリブデン (Mo) / 検出器: 半導体検出器 / 印加電圧・電流: $40\text{kV} \cdot 140 \sim 240 \mu\text{A}$ / 測定雰囲気: 真空 / 測定範囲 $0.3\text{mm} \phi$ / 測定時間300秒

波長分散型装置

対陰極: スカンジウム (Sc) / 検出器: シンチレーションカウンター / 管電圧・電流: $60\text{kV} \cdot 40\text{mA}$ / 測定雰囲気: 真空 / 分光結晶: フッ化リチウム検出器

結果はエネルギー分散型装置によるデータを示す。本調査は非破壊による表面分析で、標準資料を用いていないことから、錫のK α 線強度を100とした場合の各元素の強度を相対値で示している。また分析は各資料ともできるだけ付着土壌の影響を避けた部分を選択し、複数のポイントについて行っている。

分析結果を見ると一口に錫製品といっても、錫以外の元素が検出されるなど、その組成は一様ではない。なお結果の中で「鉄(Fe)」は全ての資料で検出されているが、この元素は資料が埋蔵されていた土にも豊富に含まれるものであり、今回の調査方法で資料に本来含まれるものと、土壌による汚染を識別することは困難であるものの、一応、参考として数値を表示しておく。

弥生時代の錫製品

資料の中で特筆すべきはカルメル修道院内遺跡出土の釧(No. 1~3)である。これは金海式の甕棺に切られた小型の木棺墓から3点が出土したもので、市内では全ての金属製品の中でも最古級に位置づけられるものである(山崎純1976・1977)。大きさは縦6~7cm、幅3.5~4cm、環の太さは5mm前後で、楕円形の片側に段(突起)が形成されており、ゴホウラ貝の縦切り(或いはそれを模した青銅製品)を模したものと考えられる。現状では3点とも著しく腐蝕し、淡灰色でブロック状の亀裂が全体に入ったり、暗灰色や黒色の微粒状の腐蝕生成物に覆われ、極度に脆弱化している。

その成分は分析の結果、錫の他に鉛が特徴的に検出された。これを見る限り、鉛の含有量は不純物では説明がつかないもので、弥生時代の早い段階に、何の目的でこの様な材質の製品が作られたのか、鉛の添加がどのような意図で行われたかなどは、今後の検討課題である。その他、銅(Cu)と亜鉛(Zn)のK α 線部分に若干の高まりが見えるが、K β 線部分は不明瞭である。波長分散型の装置では、これらの元素は確認さ

れていない。

本資料は当初、銅或いは青銅製と誤認されており(前出の報告)、その後、成瀬氏が錫製品について調査を進める中で蛍光X線による材質調査を行い、錫製であることが確認されていた。しかし、それに関して正式な調査報告が無く、同遺跡の3次調査報告において過去の調査について触れた中で、「錫釧が3個出土」と記されているのみである(山崎龍1992)。その後1999年に出版された正倉院御物に関する一般向け書籍において再び成瀬氏が錫製品について記した中で、本資料の蛍光X線分析結果が錫であったことが明記されている(成瀬1999)。このような状況で材質認識が混乱していたようであったが、これを機に錫製品としての認識が深まることを願う。

古墳時代の錫製品

No. 4、5、7~10、12~14の9点は後期古墳出土の耳環である。いずれも径5mm前後の棒を3cm大の環状に曲げた外観を呈する。中には破損により全容が明らかでないものや、出土位置が明確に古墳に伴わないものもあるが、類例の状況から、ここでは耳環として認定しておく。

この他、吉武3次の資料(No. 6)も5世紀前半の耳環と考えられる資料であるが、性格不明の不定形土壙からの出土である。2個の環が組み合わさった複環式を呈する珍しいもので、岩手県上田蝦夷森1号墳に類似品が見られるものの(近つ飛鳥博1997)、200年程の時期差があることから直接的な関連性の有無は不明である。

また西新町9次調査の環状製品(No. 11)は、土壙墓から短刀、鎌束と共に出土した。土器が伴出しておらず、報告では鎌の型式などから5世紀代に位置づけられている。一見耳環と似たような形状を呈するが、環の大きさが若干大きく開口部も腐蝕により判然としない。何より単体で出土していることもあり、その用途は検討

の余地がある。

分析の結果、耳環類の8点は大きな傾向として3つに分類することができる。

A：銅、亜鉛、鉛が明瞭にピークとして確認できるもの。これはNo. 4の1点のみである。本資料は特に銅の相対強度が正に桁違いであり、他の錫製品と比べて異質である。

B：鉛のピークが明瞭に確認され、その他に銅、亜鉛が含まれる可能性を有するもの。これらは、銅と亜鉛、両方のK α 線部分に高まりが見られるものの、K β 線はバックグラウンドに埋もれ不明瞭なもの：B-1 (No. 6～8、12～14) と、亜鉛のみ同様の状況で銅は全くピークとして確認できないもの：B-2 (No. 5) がある。しかし、これらは分析箇所によって微妙な高まりが出たり出なかったりするような不安定なもので、分類が適当か否かについては不明である。また分析結果には銅、亜鉛のX線相対強度を数値として含めているが、ピークか否かの判断は多分に主観的なものであり、これら元素の実際の有無については更なる検討が必要と思われる。ちなみに波長分散型でNo. 6、12を分析したが、6で亜鉛と銅のK α 線部分に若干の突出が見られる程度で、12では鉛しか確認できない。

C：鉛がほとんど検出されず、L α 線部分を中心に高まりが見える程度で不明瞭なもの (No. 9～11)。いずれにおいても部分的に亜鉛が強くなる場合があるが、波長分散型による9と11の分析では9で亜鉛が確認できるものの、11では錫以外にピークが出ていない。

更に8点の殆どで見られる傾向として、錫以外の元素が表層では強く、表層が剥離したり破断面における芯の分析では弱く現れるといった事象が挙げられる。これには腐蝕による成分の変化や、製作時の成分偏析、埋蔵環境下での周囲からの影響（汚染）等の可能性が想定できるが、結論を得るには更なる調査検討が必要であり、ここでは事実報告に止めることをご了解頂きたい。

耳環には様々な材質や製作技法のものが知られ、錫環もその一つである。基本的には金、銀の外観が求められ、それを金や銀そのもので製作するほか、貴金属の使用量を減らしながら効率よく視覚効果を得るために、芯に銅等を用いてその外側を金や銀板で覆ったり、更には鍍金などの工夫が施されたようである。錫環は製作当時は銀色に輝いていたと想像されることから、銀環の代用としての目的が考えられ、同様の資料として鉛製の耳環も存在する。しかし単に代用目的であれば、低融点で加工の容易な（更には現代の価値観で言えば安価な）これらの金属がもっと数多く見られてもよいように思われるが、耳環全体に占める割合としては少数派である（福岡市内では約360例の内9例＝約3%）。この限定的な使用が何を示すのかは、考古学的な検討が必要となる。

小嶋芳孝氏は蝦夷とユーラシアの交流について考察する中で、特徴的な資料として錫製の装身具（耳環・釧）に着目し、鉛製の耳環も含めた全国的な集成を行っているが、それによれば43例のうち7割近くに当たる30例が東北、北海道に集中している。これらは7世紀以降に属するもので、氏によればロシア地域を中心とした大陸からの「錫の道」を想定されている（小嶋1996）。この他、単一素材による錫環は千葉県でも4例（小嶋氏の集成以外にもう一例確認〔西原1999〕＝計5例）と、地域的な集中が見られるが、これらは6世紀前半から7世紀までの古墳時代に収まるもので、北日本の事例とは別個に考えるべきであろう。今回福岡で確認された錫環は、どちらかといえば千葉県での類例と時間的な共通点が見られる。しかし小嶋氏の集成では福岡県で1例とされていた出土事例が、今回一気に6遺跡分増加したことや、錫環の空白域であった三重県でも出土例が確認されたこと（森川他2002）などは、他地域でも詳細な調査によって類例が急増し、分布の様相が大きく変化する可能性を示しており、慎重な検討が必要であると考えられる。

なお、過去に筆者が上記も含めた錫製品の集成を行ったが、この際、十分に確認を行わないまま広石Ⅲ-2号墳出土の釦を一覧表に含めている(比佐1997)。しかし改めて材質分析を行った結果では銅製との結果が得られており、ここに記して訂正させて頂きたい。

まとめ

今回の調査では非破壊による定性分析であったが、錫製品にも含有元素により幾つかの種類のあることを示した。また古墳時代の耳環に関しては、新たな出土事例も含め、まとまった数が確認されたことで、少数ながらもある程度普遍性を持った製品であった可能性も指摘できたと考える。

遺跡から出土する錫製品は、灰色や淡灰褐色のブロック状の腐蝕を特徴としており、慣れれば肉眼での判別も不可能ではない。しかし埋蔵環境によって腐食の状態は様々であり、ましてや他金属との合金や微量元素に関する情報を肉眼観察のみで得ることは不可能である。やはり正確を期すには機器分析による裏付けが欠かせないであろう。この他、埋蔵文化財における稀少金属には鉛や銀、金などもあり、今後も機会を見つけて調査を行い、データの整理を進めたい。(文責 比佐陽一郎)

参考文献

- 大阪府立近つ飛鳥博物館編1997『「あつれき」と「交流」』—古代律令国家とみちのく文化—
小嶋芳孝1996「蝦夷とユーラシア大陸の交流」『古代王権と交流』1 名著出版
永嶋正春1991「古墳時代における金属錫の利用」『歴博』第49号 国立歴史民俗博物館
永田和宏1999「スズ [tin]」『金属の百科事典』丸善株式会社
成瀬正和1989「わが国上代の工芸材料としての錫」『正倉院年報』第11号 宮内庁正倉院事務所
成瀬正和1999「木画と錫の利用」『正倉院学ノ一

ト』朝日新聞社

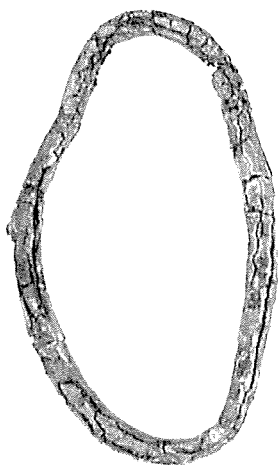
- 西原崇浩編1999『笹子遺跡群発掘調査報告書Ⅰ』四留作第一古墳群第12・13号墳・四留作遺跡(古墳下層遺構) 木更津市教育委員会
森川幸雄他編2002『近畿自動車道名古屋神戸線(第二名神) 愛知県境～四日市JCT建設事業に伴う金塚遺跡・金塚横穴墓群・山村遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター
比佐陽一郎1997「松原古墳群出土金属器の検討」『松原遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第540集 福岡市教育委員会
山崎純男1976「福岡市カルメル修道院内遺跡調査報告」『京ノ隈遺跡』—福岡市西区田島所在の古墳と京塚の調査—一段谷地所開発株式会社
山崎純男1977「カルメル修道院内遺跡」『福岡平野の歴史・緊急発掘された遺跡と遺物』福岡市立歴史資料館
山崎龍雄編1992『カルメル修道院内遺跡Ⅱ』—カルメル修道院内遺跡第3次調査の報告—福岡市埋蔵文化財調査報告書第299集 福岡市教育委員会

表7 福岡市内出土弥生時代～古墳時代の錫製品一覧

No.	出土遺跡	調査No	報告書No	遺物No	出土遺構	資料名	時期	報告書Fig
1	カルメル修道院2次	7610	参考文献参照	C-884	小児用木棺墓	釧	弥生前期後半	
2	カルメル修道院2次	7610	参考文献参照	C-885	小児用木棺墓	釧	弥生前期後半	
3	カルメル修道院2次	7610	参考文献参照	C-886	小児用木棺墓	釧	弥生前期後半	
4	徳永古墳群2次	7905	市報56集	3121	3号墳或いは5号墳	耳環	古墳後期	未図化
5	徳永古墳群2次	7905	市報56集	5010	5号墳	耳環	古墳後期(6C後半)	30-50
6	吉武3次	8235	市報127集	53	SX-20底面	耳環	古墳後期(5C後半)	31-41
7	野方古墳群D群	8738	市報226集	148	1号墳	耳環	古墳後期(6C後半)	未図化
8	羽根戸古墳群E群	8746	市報198集	10105	1号墳玄室埋土	耳環	古墳後期	7-10105
9	桧原古墳群1次	9234	市報540集	20003	1号墳	耳環	古墳後期(6C後半)	15-3
10	桧原古墳群1次	9234	市報540集	20004	1号墳	耳環	古墳後期(6C後半)	15-4
11	西新町9次	9458	市報505集	508	SR-58	環	古墳後期(5C後半?)	49-175
12	三苦5次	200015	市報773集	C-00-2	出土古墳不明	耳環	古墳後期?	242-8
13	三苦5次	200015	市報773集	C-08-4	8号墳	耳環	古墳後期	232-88
14	三苦5次	200015	市報773集	C-10-1	10号墳	耳環	古墳後期	242-7

表8 錫製品の分析結果

No.	出土遺跡	調査No	遺物No	資料名	分析箇所	分析条件							錫K α 線の強度を100とした場合の各元素のX線強度				
						kV	μ A	鉄(Fe-K α)	銅(Cu-K α)	亜鉛(Zn-K α)	鉛(Pb-L α)	錫(Sn-K α)					
1	カルメル修道院2次	7610	C-884	釧	point1	表面任意	40	200	12.60	1.79	0.82	47.11	100.00				
					point2	表層剥離気味部分	40	170	76.89	1.21	1.56	57.09	100.00				
2	カルメル修道院2次	7610	C-885	釧	point1	表層残存	40	160	25.26	0.81	0.47	34.96	100.00				
					point2	表層残存	40	180	14.30	1.47	2.38	52.46	100.00				
					point3	表層剥離	40	180	7.85	1.76	0.78	48.29	100.00				
3	カルメル修道院2次	7610	C-886	釧	point1	凹凸の激しい部分	40	200	33.00	1.30	0.75	26.84	100.00				
					point2	表層残存	40	190	82.97	1.37	2.58	36.15	100.00				
					point3	表層剥離	40	240	10.44	2.27	0.43	37.47	100.00				
4	徳永古墳群2次	7905	3121	耳環	point1	付着土壌の少ない部分任意	40	170	129.63	23.71	1.35	5.88	100.00				
					point2	付着土壌の少ない黒色部分	40	140	12.98	32.76	2.65	10.30	100.00				
					point3	破断面、芯の黒色部	40	190	5.48	5.33	0.59	3.04	100.00				
					point4	破断面、芯の外側白色部	40	210	11.20	15.92	2.33	2.19	100.00				
5	徳永古墳群2次	7905	5010	耳環	point1	付着土壌の少ない部分任意	40	180	30.05	—	0.97	4.90	100.00				
					point2	付着土壌の少ない黒色部分	40	180	25.49	—	0.26	5.36	100.00				
6	吉武3次	8235	53	耳環	point1	表層残存部	40	150	164.27	1.52	1.83	6.58	100.00				
					point2	表層剥離(暗灰色部分)	40	160	58.42	1.87	2.46	2.25	100.00				
					point3	表層残存部(明灰色部分)	40	170	198.13	2.30	2.50	8.81	100.00				
7	野方古墳群D-1号墳	8738	148	耳環	point1	付着土壌の少ない部分任意	40	170	41.31	2.50	1.52	6.67	100.00				
					point2	破断面中心部	40	160	21.85	2.19	0.71	2.30	100.00				
8	羽根戸古墳群E群	8746	10105	耳環	point1	表面任意	40	170	14.88	1.80	0.28	3.51	100.00				
					point2	表層剥落部(黒色部分)	40	230	14.99	1.25	1.00	2.13	100.00				
					point3	表層残存部	40	170	54.14	1.57	0.46	5.48	100.00				
9	桧原古墳群1次	9234	20003	耳環	point1	表面任意	40	170	17.46	—	9.48	1.63	100.00				
					point2	表層剥落部(黒色部分)	40	170	5.32	—	0.92	0.21	100.00				
					point3	表層残存部	40	160	21.76	—	4.46	1.29	100.00				
10	桧原古墳群1次	9234	20004	耳環	point1	表層剥落部(黒色部分)	40	160	4.28	—	1.43	0.50	100.00				
					point2	表層剥落部(黒色部分)	40	160	5.14	—	1.06	0.34	100.00				
					point3	表層残存部	40	160	64.88	—	12.34	2.04	100.00				
					point4	表層剥落部(黒色部分)	40	210	13.14	—	2.26	1.10	100.00				
					point5	表層残存部	40	160	28.71	—	11.10	2.31	100.00				
11	西新町9次	9458	508	環	point1	表層剥落部(黒色部分)	40	170	17.49	—	0.18	1.15	100.00				
					point2	表層残存部	40	190	56.92	—	2.11	1.57	100.00				
					point3	表層剥落部(黒色部分)	40	210	19.70	—	0.18	0.80	100.00				
					point4	表層残存部	40	190	64.99	—	2.77	1.52	100.00				
12	三苦5次(出土古墳不明)	200015	C-00-2	耳環	point1	表面任意	40	170	10.78	1.16	0.87	12.52	100.00				
					point2	破断面明灰色部分(中心付近)	40	190	11.51	1.14	0.81	1.57	100.00				
					point3	破断面暗灰色部分(表層付近)	40	140	2.60	0.53	0.15	3.03	100.00				
					point4	表面任意	40	180	9.83	1.14	0.94	5.07	100.00				
13	三苦5次(8号墳)	200015	C-08-4	耳環	point1	表面任意	40	200	20.64	1.11	1.28	5.17	100.00				
					point2	破断面明灰色部分(中心付近)	40	160	27.22	1.44	1.19	2.92	100.00				
					point3	破断面暗灰色部分(表層付近)	40	150	2.98	1.11	0.15	2.36	100.00				
					point4	表面任意	40	160	52.67	1.04	1.96	3.85	100.00				
14	三苦5次(10号墳)	200015	C-10-1	耳環	point1	表面任意	40	180	1.75	1.40	0.40	5.09	100.00				
					point2	表面と破断面の境	40	190	19.29	1.96	0.42	11.49	100.00				



1
(7610-C-884)

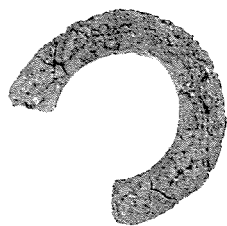


2
(7610-C-885)



3
(7610-C-886)

錫釧 (資料 No. 1 ~ 3)



4
(7905-03121)



5
(7905-05010)



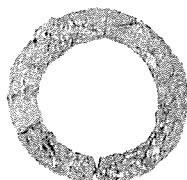
6
(8235-00053)



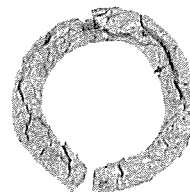
7
(8738-00148)



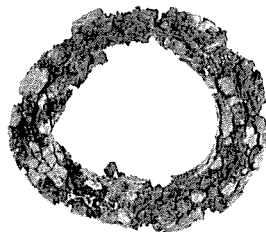
8
(8746-10105)



9
(9234-20003)



10
(9234-20004)



11
(9458-00508)



12
(200015-C-00-2)



13
(200015-C-08-4)



14
(200015-C-10-1)

耳環類 (資料No. 4~14)

遺物下の数字は一覧表の番号に対応、() 付きは遺物登録番号、Cが付くものは仮番号

3. 教育普及活動

(1) 展 示

当センターでは「埋蔵文化財の保存・保護」と、本市の都市像のひとつである「海と歴史を抱いた文化都市」に則した「弥生以来の海外交易の拠点都市」を展示の主テーマとしている。

第1展示室では、埋蔵文化財の保護と保存をテーマに、発掘調査から遺物・記録類が収蔵、管理・活用されるまでの一連の流れと、木器・金属器等の科学的保存処理の成果を「埋蔵文化財とは何か」・「埋蔵文化財の保存処理」・「埋蔵文化財の修復」・「発掘現場での保存科学的作業」・「埋蔵文化財の収蔵管理と活用」・「埋蔵文化財と考古学」・「旧石器・縄文時代の福岡」の項目で展示している。



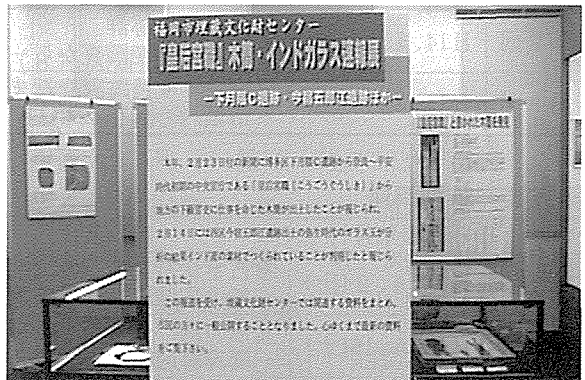
第1展示室

第2展示室では、江戸時代に鎖国されるまで日本の玄関口であり続けた本市の特徴をとりあげ、最も脚光を浴びた「奴国の時代」の弥生時代と国内最大の国際貿易港であった「中世都市博多」の時代に焦点をあて、それぞれ「奴国の拠点集落那珂・比恵遺跡」・「奴国以前」・「大型建物」・「環濠・大溝・条溝」・「墳丘墓」・「交流と交易」・「争う」・「祭る」・「装う」・「つくる」・「まかなう」と「日本の玄関・博多」・「匠」・「鴻臚館の時代」・「海外との交易」・「国内の交易」・「中世博多の情景」・「戦乱」・「たしなむ・あそぶ」の項目でテーマ展示を行っている。



第2展示室

第3展示室は、部門展示室として短期展示を行っており、考古学講座に合わせたテーマ展や特別展・発掘調査速報展などを実施している。平成13年度は下表のとおり4回の展示を実施した。



第3展示室

表9 第3展示室展示会一覧

種別	名称	期間
テーマ展	「鴻臚館の時代－市内の遺跡から－」	H13.4.1～H14.4.21
速報展	「皇后宮職木簡・インドガラス速報展」	H14.2.23～3.7
特別展	「甦る出土遺物－平成12年度保存処理成果展－」	H13.7.24～9.2
	「平成13年度市指定文化財資料展」	H14.3.9～4.21

(2) 講座・展示会

講座

本年度は、昨年度の好評をうけて、「続・鴻臚館の時代」と題して、引き続き鴻臚館をとりまく様々な遺跡の発掘調査をとりあげ、古代日本の律令体制について掘り下げるべく、それぞれの研究者を招いて6回の講座を開催した。

発掘調査速報シリーズは、本年度に発掘調査が行われた遺跡のうち、重要と思われるものについて速報講演を実施しているもので、本年度は紙面を賑わすような発見が少なく、笠拔遺

跡・下月隈遺跡、元岡桑原遺跡群の速報講演と、年度末恒例の遺跡調査総まくりを含めて3回の講演を行った。

また、当センターの12年度の保存処理成果について「甦る出土遺物シリーズ. 2」と埋蔵文化財課との共催で「福岡市・釜山市文化財交流事業シリーズー遺跡から見た日韓交流ー」、九州・沖縄水中考古学会との共催で「元寇の島ー鷹島海底遺跡の調査ー」の3回の特別講座を実施した。

第10表 考古学講座「鴻臚館の時代」

	開催年月日	講演内容	講師	受講数
第1回	H13.5.19(土)	最前の防人・対馬金田城	長崎県教育庁 高野 晋司 氏	95名
第2回	H13.5.19(土)	動く郡衙?上岩田・小郡・下高橋官衙遺跡	小郡市役所 宮田 浩之 氏	72名
第3回	H13.8.18(土)	北の政庁・多賀城	多賀城跡調査研究所 白鳥 良一 氏	80名
第4回	H13.10.20(土)	津の御厨・海の中道遺跡	福岡市教育委員会 山崎 純男 氏	73名
第5回	H13.12.15(土)	飛鳥池と藤原京	奈良文化財研究所 松村 恵司 氏	111名
第6回	H14.2.17(土)	鴻臚館を掘る	福岡市教育委員会 池崎 譲二 氏	77名

第11表 発掘調査速報シリーズ

	開催年月日	講演内容	講師	受講数
第1回	H13.4.21(土)	治水に願いをー笠拔遺跡・下月隈遺跡調査からー	埋蔵文化財課 山崎龍雄・常松幹雄 氏	69名
第2回	H14.1.19(土)	元岡桑原遺跡群ー平成13年度調査からー	大規模事業等担当 菅波 正人 氏	82名
第3回	H14.3.16(土)	平成13年度遺跡調査総まくりー市城内の調査からー	埋蔵文化財課 山口 譲治 氏	86名

第12表 特別講座

	開催年月日	講演内容	講師	受講数
第1回	H13.6.2(土)	考古学から見た日韓交流史ー釜山広域市文化財交流事業からー	釜山市博物館 李 賢珠・成 炫周 氏	77名
第2回	H13.6.16(土)	元寇の島ー鷹島海底遺跡の調査ー	九州・沖縄水中考古学協会 林田 憲三 氏	113名
第3回	H12.9.16(土)	甦る出土遺物. 2ー平成12年度保存処理成果についてー	埋蔵文化財センター 比佐 陽一郎 氏	79名

展示会

また、博多駅地下の『えふギャラリー』で博物館実習を兼ね「まじないー遺物に見る精神世界」と題して展示を実施した。他に福岡市交通局藤崎駅、環境局西部埋立場事務所、市内小学校8校などの公共施設、民間ビルや養護施設等

にも市内出土品展示コーナーを設置している。

(3) 資料の提供

市民・小中学校・各種博物館・大学などの研究機関・出版社・報道関係などの利用希望に対して、考古資料や記録資料を提供している。資

料利用は大きく館内利用と館外利用（貸出）に分けられる。館内利用件数は456件で、その内訳は考古資料の閲覧・実測・撮影などが160件5,965点、記録類・図書の閲覧が296件・2,864点である。

館外利用（貸出）件数は126件で、考古資料3,150点と記録類等593点の利用があった。利用

内訳は、1年以上の長期貸出32件、博物館などの展示のための短期貸出94件である。

（４）研究会の利用

部内および対外の考古学研究会での当館施設利用が件あった。

表13 研究会等館内施設利用一覧

利用年月日	団体名	利用内容	参加人員
H13.6.23	東アジア考古学研究会	例会	20名
H13.7.25	北海道研究会	例会	10名
H13.9.22	東アジア考古学研究会	例会	20名
H13.11.11	東アジア考古学研究会	例会	20名
H13.12.7	鴻臚館跡調査研究指導委員会	指導委員会	35名
H14.2.10	板付弥生土器を作る会	例会	6名
H14.3.10	板付弥生土器を作る会	例会	10名
H14.3.23	四国庄内式土器研究会	例会	20名

（５）図書の閲覧

1階図書コーナーに一般から小学生向けの歴史・考古学関係の図書約470冊を揃えている。ここの閲覧は自由である。2階図書室では市内及び全国の発掘調査報告書と歴史・考古学専門書を主に図書約41,000冊を揃えており、286件の利用があった。

（６）刊行物

- 『福岡市埋蔵文化財センター年報』第20号 平成12（2000）年度 A4版28ページ。平成14年3月10日発行。文化財関係機関・図書館などに配布。
- 『見学のしおり』（展示案内パンフレット） B4版3つ折り6ページ。入館者に無料配布。
- 『平成13年度考古学講座案内』A3版2ページ。文化財関係機関・図書館などや入館者に無料配布。

（７）博物館実習

博物館実習の依頼があったので、以下のよう

- ①実習期間：平成13年7月24日～8月4日までの2週間

- ②実習生：9名（西南学院大学文学部国際文化学科・同外国語学科・福岡大学人文学部歴史学科・筑紫女学園大学文学部日本語日本文学科）

- ③実習内容：オリエンテーション（1日）教育普及実習（貸出・展示5日）図書資料実習（1日）遺物保存処理実習（2日）収蔵管理実習（1日）施設見学（1日）

（８）図書関係

- ①平成12年度図書受入状況
購入275冊（一般52・雑誌223）
受贈2,003冊（一般1,929・雑誌74）
計2,278冊（一般1,981・雑誌297）
- ②平成12年度末蔵書数
40,731冊（購入7,931・受贈32,800）
- ③定期受入雑誌一部受贈を含めて以下の38種である。

（国内発行）URC資料季報・貝塚・九州文化史研究所紀要・季刊考古学・月刊考古学ジャーナル・古代学研究・ふるさとの歴史と自然・月刊文化財発掘情報・古代学研究所研究紀要・物質文化・考古学雑誌・古代学評論・文化庁月報・考古学研究・古代化総論・Museum Kyusy-

hu・考古学論叢・都府楼・鴻都・日本研究・
信濃・古代を考える・日本考古学年報・CSN西
日本文化・博物館研究・博古研究
(国外発行) 韓国上古史学報・百濟研究・朝

鮮考古研究・韓国考古学報・考古学報・考古・
考古与文物・故宫博物院院刊・四川文物・中原
文物・農業考古・文物

表14 2001年度資料貸出等一覧

登録番号	受付月日	申請者	区分	資料名	総点数	遺物	写真	他	貸出日	備考
2001-01	20010401	群馬県立歴史博物館	A	藤崎50号甕棺	2	2	0	0	20010401	常設展示
2001-02	20010402	講談社	B	三郎丸古墳新羅土器	1	0	1	0	20010404	「週刊・再現日本史」第9号
2001-03	20010402	(株)ブランディット	D	金隈甕棺墓						「6教科センター試験対策PACK8月号」
2001-04	20010403	雄山閣出版	D	板付I式土器セット						「米の日本史」
2001-05	20010404	東箱崎小学校	A	箱崎・板付・野多目	7	7	0	0	20010401	常設展示
2001-06	20010404	NHKスペシャル番組部	E	比恵炭化米他						番組「日本人はるかな旅」
2001-07	20010401	板付小学校	A	板付土器・石器	14	14	0	0	20010401	常設展示
2001-08	20010409	賀茂小学校	A	鶴町他	36	36	0	0	20010401	常設展示
2001-09	20010420	(株)山川出版社	B	鋤崎古墳石室	1	0	1	0	20010422	日本史リブレット4「古墳とその時代」
2001-10	20010418	(株)テレビマンユニオン	E	那珂20次浮文土器・吉武絵画土器						TBS番組「世界ふしぎ発見」
2001-11	20010428	有限会社 ハユマ	B	吉武樋渡・宮の前青銅器・鉄器	3	0	3		20010502	ポプラ社「ジュニア総合百科」
2001-B01	20010509	文化財部	C	広角レンズ	1	0	0	1	20010509	元寇防塁撮影
2001-12	20010429	文化財整備課	A	金隈・野方・板付他	71	71	0	0	20010401	展示館常設展示
2001-13	20010505	富沢遺跡保存館	AB	雀居・大原他組織痕土器他	9	6	3	0	20010509	特別展「編む・組む一技の考古学一」
2001-14	20010505	(株)吉川弘文館編集第1部	D	吉武高木110号甕棺副葬品・雀居案						「交流する弥生人」
2001-15	20010510	名島小学校	A	蒲田・海の中道他	28	28	0	0	20010401	常設展示
2001-16	20010510	NHKスペシャル番組部	B	板付水田他	6	0	6	0	20010411	番組「日本人はるかな旅」
2001-17	20010501	浜松市博物館	AB	博多陶磁器	90	83	7	0	20010516	特別展「中世都市と“ひくま”」
2001-18	20010513	(株)講談社	B	博多78次バスバ印指輪	1	0	1	0	20010516	「日本の歴史第10巻「蒙古襲来と徳政令」
2001-19	20010517	春日市教育委員会	AB	柏原・四箇他土器	18	11	7	0	20010518	特別展「古代の器」
2001-20	20010518	福岡市博物館	A	比恵42次銅型・吉武1次銅剣・上月隈C銅剣	3	3	0	0	20010522	常設展示代替展示資料
2001-21	20010520	福岡市博物館	AB	有田他銅型他市指定文化財	648	617	31	0	20010522	部門展「福岡市指定文化財ー考古資料編ー」
2001-22	20010523	(株)学宝社	B	板付石包丁	1	0	1	0	20010526	中学学習教材「学習整理/歴史I」
2001-23	20010524	東吉塚小学校	C	教材	1	0	0	1	20010525	センター見学事前学習
2001-24	20010601	大韓民国世界陶磁エキスポ組織委員会	AB	博多出土朝鮮陶磁	21	19	2	0	20010612	博覧会「世界陶磁エキスポ2001大韓民国」
2001-25	20010603	福岡市博物館	A	博多103次黒釉犬・105次白磁水滴	2	2	0	0	20010911	常設展示代替資料
2001-26	20010607	(株)ヒューマンエナジー研究所	B	博多青磁碗・瀬戸水注	2	0	2	0	20010607	雑誌「モンタン」6月号
2001-27	20010609	堺市博物館	A	雀居・板付土器・石器	19	19	0	0	20010912	特別展「堺発掘物語ー古墳と遺跡から見た堺の歴史」
2001-28	20010610	鳥根県立八雲立つ風土記の丘	AB	宝満尾・カルメル他ガラス	53	45	8	0	20010912	企画展「古代の技術を考えるII.ガラスのささやき」
2001-29	20010619	日立市郷土博物館	AB	雀居・拾六町ツイジ他青銅器・木器	16	11	5	0	20010621	特別展「常陸の弥生文化」
2001-30	20010619	堺市博物館	B	雀居・板付全景	5	0	5	0	20010626	特別展「堺発掘物語」
2001-31	20010619	堺市博物館	E	雀居・板付他土器・石器						特別展「堺発掘物語」
2001-32	20010619	愛知県陶磁資料館	E	諸岡無文土器・博多朝鮮陶磁器						博覧会「世界陶磁エキスポ2001大韓民国」
2001-33	20010627	(株)裕思社	B	柏原M越州窯青磁香炉	1	0	1	0	20010628	東京書籍「図説日本史」
2001-34	20010629	RKB毎日放送	E	博多56鬺白磁碗						番組「電撃黒潮隊ーたいみましーんの海ー」
2001-B01	20010629	埋蔵文化財センター	B	飯倉C2次・上月隈C3次	12	0	12	0	20010629	文化財保護審議会
2001-35	20010702	東洋陶磁学会	B	鴻臚館越州窯青花文碗	1	0	1	0	20010705	「東洋陶磁史ーその研究の現在ー」
2001-36	20010705	横浜市歴史博物館	B	那珂37次環漆・板付環漆・吉武高木建物	3	0	3	0	20010707	特別展「甕の大環漆集落」
2001-37	20010705	九州大学 鐘ヶ江賢二	D	比恵9次SE015土器						「人類学研究」13号
2001-38	20010708	(株)青澤社	B	那珂八幡古墳全景	1	0	1	0	20010711	「週刊ビジュアル日本の歴史」82号
2001-39	20010703	市長室報道課	B	博多東南アジア陶磁器	3	0	3	0	20010704	市政PR広告掲載
2001-B01	20010714	埋蔵文化財課	B	東区遺跡	21	0	21	0	20010714	講演
2001-40	20010712	鹿児島市教育委員会	AB	姪浜3次無文土器他	7	5	2	0	20010713	企画展「南の弥生文化ー海を渡った大陸文化ー」
2001-41	20010715	大阪府富田林土木事務所	E	比恵・板付鑄造鉄斧他						特別展「発掘された古代の土木技術」
2001-42	20010715	大阪府富田林土木事務所	A	比恵・板付鑄造鉄斧他	3	3	0	0	20010916	特別展「発掘された古代の土木技術」
2001-43	20010720	NHK出版	B	鴻臚館・博多調査区全景	5	0	5	0	20010724	「国境の誕生ー大宰府から見た日本の原形」
2001-B01	20010421	文化財整備課	B	鴻臚館跡調査区全景	3	0	3	0	20010721	鴻臚館跡展示館展示パネル作成
2001-44	20010722	佐賀県立博物館	D	那珂37次・板付環漆写真						企画展「弥生都市はあったかー拠点環漆集落の実像」
2001-45	20010716	古賀市立歴史資料館	A	井尻B3次百済系瓦	2	2	0	0	20010725	企画展「甕の波ー薬王寺廃寺と古賀の瓦業」
2001-46	20010726	下関市立考古博物館	AB	今宿五郎江小銅鑄他	11	5	6	0	20010731	企画展「弥生時代ー日本海地域の交流ー」
2001-47	20010425	田中克子	E	博多茶入れ						博多研究誌第9号
2001-48	20010805	(株)至文堂	D	博多象嵌青磁						「日本の美術」第425号「高麗茶碗」
2001-49	20010803	中世博多展実行委員会	A	博多素焼き人形他	22	22	0	0	20010809	中世博多展第2会場展示
2001-50	20010809	福岡市博物館	A	東入部素環頭刀子	1	1	0	0	20010911	常設展示代替展示資料
2001-51	20010817	博多区振興課	AC	博多他祭祀遺物	106	98	0	8	20010801	まちかど文化ひろば「fざらりー」展示
2001-52	20010817	西園禮三	BC	柏原K地点全景他	7	0	6	1	20010817	「元寇ー写真で読む蒙古襲来ー」
2001-53	20010814	笠懸野岩宿文化資料館	AB	野方久保細形銅剣他	7	4	3	0	20010822	企画展「日本人のルーツを探る」
2001-54	20010822	福岡市博物館	A	宝満尾古墳他装身具	75	75	0	0	20010824	事業「博物館・親と子のワークショップ」

註) 表の区分とは許可区分で、A:遺物貸出、B:写真貸出、C:その他の貸出、D:図面・写真等の使用、E:遺物撮影を示す。

登録番号	受付月日	申請者	区分	資料名	総点数	遺物	写真	他	貸出日	備考
2001-55	20010827	(株)悠工房	D	宝台丹塗高坏						教育同人社発行「小学6年社会科資料集」
2001-B01	20010829	埋蔵文化財課	B	博多96次全景他	23	0	23	0	20010829	埋蔵文化財研究会発表
2001-B01	20010830	埋蔵文化財課	C	回転台	2	0	0	2	20010830	土器製作
2001-56	20010827	(株)学習研究社	B	板付石包丁	1	0	1	0	20010830	「マイコーナ4号」
2001-B01	20010901	文化財整備課	A	四箇縄文土器・石器	10	10	0	0	20010908	四箇田公民館講座
2001-57	20010831	東京国立博物館	A	鴻臚館跡陶磁器	23	23	0	0	20010706	常設展示
2001-58	20010902	(株)講談社	B	博多4次白磁水注	1	0	1	0	20010904	「日本の歴史」第14巻「周縁から見た中世日本」
2001-59	20010905	福岡市博物館	A	野方久保25号銅剣	1	1	0	0	20010911	常設展示代替展示資料
2001-60	20010910	(株)学習研究社	D	板付6次二又鍬・三又鍬						正進社「小学6年社会科資料集」
2001-61	20010913	(株)共同通信社大阪支社	B	鴻臚館木簡他	3	0	3	0	20010916	企画記事「文字の考古学」
2001-62	20010919	西南学院大学	A	羽根戸原C須恵器	20	20	0	0	20010401	博物館実習教材
2001-63	20010919	九州歴史資料館	E	鋤崎古墳他銅鏡						「13年度研究論集」
2001-64	20010919	NHKスペシャル番組部	E	雀居5次大洞式土器・7次土壙墓						番組「日本人はるかな旅-そして日本人が生まれた」
2001-65	20010919	(株)正進社	E	板付えぶり・石包丁・拾六町ツイジ杵						「スタディナビ【歴史】1」
2001-66	20010919	(株)講談社	B	博多青磁双魚文皿他	4	0	4	0	20010921	「日本の歴史」14巻「周縁から見た中世日本」
2001-67	20010919	福岡市博物館	A	博多青白磁梅瓶他	31	31	0	0	20011023	特別展「北条時宗とその時代」
2001-68	20010723	城原小学校20周年行事実行委員会	A B	拾六町ツイジ土器・木器	31	25	6	0	20010923	展示会「拾六町ツイジ遺跡展」
2001-69	20010921	FHP研究所 学芸出版部	B	城ノ原丹塗磨研壺	1	0	1	0	20010923	「歴史と科学」
2001-70	20010921	市長室広報課	E	博多元様式青花碗・青磁双魚文皿						広報番組「みんなのふくおか」
2001-71	20010927	九州大学 田尻義了	D	有田179次鋳型						「九州考古学」76号
2001-72	20010925	(株)日本放送出版協会	B	那珂君休3次木製鋳型	5	0	5	0	20011003	「まんがでたどるNHK 日本人はるかな旅」
2001-73	20011010	市長室広報課	B	鴻臚館跡イスラム陶器他	12	0	12	0	20010811	「鴻都第50号」
2001-74	20011010	五和町教育委員会	B	鴻臚館跡木簡	1	0	1	0	20010919	「五和町史」
2001-75	20010920	福岡市博物館	A	井尻B鏡鋳型	1	1	0	0	20010920	レブリカ作製
2001-76	20010920	福岡市博物館	D	井尻B鋳型						レブリカ作製
2001-B01	20011018	埋蔵文化財課	C	カメラ	2	0	0	2	20011018	撮影
2001-77	20011023	(株)角川書店	B	城ノ原丹塗磨研壺・板付夜白丹塗磨研壺	0	0	2	0	20011025	「角川日本陶磁大辞典」
2001-78	20011024	朝日新聞西部本社	E	志賀島礎石						10月26日朝刊
2001-B01	20011026	文化財部	B	志賀島礎石	1	0	1	0	20011026	シンポジウム「元寇とその時代、Ⅲ」
2001-79	20011026	(株)日本放送出版協会	B	博多天目茶碗・茶入・古唐津片口	14	0	14	0	20011027	「茶陶 その歴史と現代作家101人」
2001-80	20011030	NHK番組制作局ドラマ番組部	D	博多日末貿易関係資料						番組「北条時宗」第45回
2001-81	20011106	(株)ハニマ	B	宝満尾ガラス小玉	1	0	1	0	20011107	「ビジュアル歴史」
2001-82	20011111	(株)セレクト	E	板付式土器セット						日本通信教育連盟ビデオ「映像考古学」
2001-B01	20011113	埋蔵文化財課	B	大原D3次堅穴住居	4	0	4	0	20011113	業務
2001-83	20011120	福岡市博物館	A	唐原他刀子	6	6	0	0	20011122	出前講座「古代の文書をつくらう」
2001-84	20011122	毎日新聞福岡総局	E	志賀島礎石						10月28日朝刊
2001-85	20011122	文化庁文化財部美術学芸課	B	吉武高木3号木棺副葬品	1	0	1	0	20011127	海外展「日本美術品名品展」
2001-B01	20011128	埋蔵文化財センター	B	広石古墳群他	18	0	18	0	20011128	講演
2001-86	20011130	韓国放送公社東京支局	E	諸岡B他旧石器						特番「歴史スペシャル」
2001-87	20011125	(株)じえんず	B	板付縄文水田足跡	1	0	1	0	20011129	Web教材「ビクシランド6年社会歴史」
2001-B01	20011130	埋蔵文化財センター	B	板付・野多目他	28	0	28	0	20011130	公民館講座
2001-B01	20011202	埋蔵文化財課	A	博多島鏡他	3	3	0	0	20011202	業務
2001-88	20011213	(株)ベネッセコーポレーション	E	金隈墓棺蓋						2002年「6教科センター試験対策PACK8月号」
2001-89	20011218	西日本新聞社事業局出版部	B	博多14次白磁山他	7	0	7	0	20010817	写真集「元寇と博多一写真で読む蒙古襲来」
2001-90	20011218	(株)正進社	D	板付えぶり・石包丁他写真						中学社会科資料集「歴史の資料」
2001-91	20011218	雄山閣出版株式会社	B	博多45次銅鏡他	7	0	7	0	20011222	「季刊考古学第78集」
2001-92	20011219	(株)岩崎書店	B	吉武高木3号木棺墓	1	0	1	0	20011225	「教科書の絵と写真で見る日本の歴史資料集1巻」
2001-93	20011228	御松山市生涯学習振興財団	A	井尻B・飯倉D鏡鋳型・夫婦塚五鈴鏡	3	3	0	0	20020122	特別展「伊豫の鏡」
2001-94	20011228	御松山市生涯学習振興財団	E	井尻B・飯倉D鏡鋳型・夫婦塚五鈴鏡						特別展「伊豫の鏡」
2001-95	20020107	経済振興局観光課	E	センター外観・展示室						観光情報案内「よかなび」
2001-96	20020113	(株)岩崎書店	B	諸岡B貝輪	1	0	1	0	20020115	「教科書の絵と写真で見る日本の歴史資料集2巻」
2001-97	20020115	九州大学 降矢哲也	E	博多高麗青磁						「平泉文化研究年報、2」
2001-98	20020120	(株)学生社	D	藤崎二神二車馬鏡・那珂銅製鋳先						「九州弥生文化の研究」
2001-99	20020123	(株)ピー・アンド・シー	B	金隈貝輪	2	0	2	0	20020123	西日本新聞「1月31日号朝刊」
2001-100	20020124	NHK出版第一図書出版部	D	雀居木器・板付式土器他						「日本人はるかな旅、5-そして日本人が生まれた-」
2001-B01	20020126	埋蔵文化財センター	B	鴻臚館トイレ	6	0	6	0	20020126	公民館講座
2001-101	20020116	静岡市立登呂博物館	E	板付他板付式土器・丹塗磨研土器						秋季特別展「弥生のまつり-その響きと輝き-」
2001-102	20020118	片江校区郷土史研究会	D	浄泉寺他校区内遺跡						「校区の郷土史」
2001-B01	20020126	大規模事業等担当	B C	下山門敷町2次スライド・図面	155	0	113	42	20020126	報告書作成

(註) 表の区分とは許可区分で、A：遺物貸出、B：写真貸出、C：その他の貸出、D：図面・写真等の使用、E：遺物撮影を示す。

登録番号	受付月日	申請者	区分	資料名	総点数	遺物	写真	他	貸出日	備考
2001-B01	20020126	大規模事業等担当	B	三苦永浦・志賀島	15	0	15	0	20020126	報告書作成
2001-103	20020126	中央公論新社	B	博多墨書陶磁	4	0	4	0	20020130	「日本の中世」第3巻「異郷を結ぶ商人と職人」
2001-104	20020126	㈱吉川弘文館 編集第二部	B	板付水田	2	0	1	1	20020130	「日本の時代史」第一巻
2001-105	20020126	㈱吉川弘文館 編集第二部	D	板付式土器						「日本の時代史」第一巻
2001-106	20020124	韓国放送公社東京支局	E	唐泊木碗復元品						番組「歴史スペシャル」
2001-107	20020129	福岡市博物館	B	博多60次アフリカ集積遺構	1	0	1	0	20020205	「Facata 46号」
2001-B01	20020130	埋蔵文化財センター	B	吉武9次旧石器調査	13	0	13	0	20020130	報告書作成
2001-108	20020130	㈱フィックス	D	四箇他木製農具						教材「デジタルコンテンツ」
2001-109	20020206	鎌田恵務	E	唐泊木碗復元品						博多港整備銘板参考資料
2001-B01	20020206	文化財整備課	A	上月隈副葬品	24	24	0	0	20020206	平成13年度保護審議会
2001-110	20020207	筑津市歴史民俗資料館	A	藤崎58号甕棺	2	2	0	0	20020401	常設展示
2001-B01	20020210	埋蔵文化財課	A	立花寺2次白磁・青磁	4	4	0	0	20020210	下月隈C7次記者発表
2001-111	20020208	九州大学 鐘ヶ江賢二	D	比恵9次他土器写真他						「認知考古学革命」
2001-112	20020208	講談社総合編集第一出版部	B	博多4次緑釉落着し唐草文瓶他	2	0	2	0	20020213	「再現日本史」第47号「遣明船と寧波の乱」
2001-113	20020210	㈱学生社	D	郭珂他銅製鋤先・板付木製鋤						「九州弥生文化の研究」
2001-B01	20020213	埋蔵文化財課	B	今宿五郎江地	19	0	19	0	20020213	遺跡説明板修復
2001-114	20020213	西日本新聞社	E	吉武高木大型建物復元模型						吉武高木遺跡関連記事
2001-115	20020214	経済振興局観光課	E	井相田C出土品他						観光情報案内ステーション「よかなビ」
2001-116	20020214	国立歴史民俗博物館	A	板付・有田・三筑	25	25	0	0	20020401	常設展示
2001-117	20020215	国立歴史民俗博物館 藤尾慎一郎	D	橋本一丁田2次炭化物						基盤研究A「縄文・弥生時代の高精度年代体系の構築」
2001-118	20020216	㈱軌プロジェクト	D	板付・比恵弥生土器						平成14年度版「社会科資料集」
2001-119	20020221	福岡市博物館	AB	東入部唐三彩他陶磁器	57	53	4	0	20020226	部門展「近年出土の対外交関係遺物展・2」
2001-120	20020219	甘木歴史資料館	AB	戸原斐尾絵馬	6	1	5	0	20020226	特別展「甘木の絵馬」
2001-B01	20020227	文化財整備課	B	上月隈銅剣	1	0	1	0	20020227	記者発表
2001-121	20020306	野多目小学校	A	野多目土器・石器	47	47	0	0	20020401	校内展示
2001-B01	20020314	福岡市博物館	C	ビデオカメラ	1	0	0	1	20020314	業務
2001-122	20020310	広島県立歴史博物館	A	博多青磁・陶器・墨書	6	6	0	0	20020401	常設展示
2001-123	20020310	太宰府市教育委員会	A	博多ガラス小壺	2	2	0	0	20020418	企画展「土中から見た太宰府の歴史」
2001-124	20020313	インタナショナル映画株式会社	E	諸岡B他半島系遺物						済州文化放送番組「耽羅に流れる水」
2001-125	20020308	福岡市博物館	A	城ノ原他出土品	1100	1100	0	0	20020401	常設展示
2001-126	20020312	福岡市交通局	A	藤崎甕棺	4	4	0	0	20020401	地下鉄藤崎駅常設展示
2001-127	20020312	神戸市教育委員会	A	有田64次甕棺	3	3	0	0	20020401	埋文センター常設展示
2001-128	20020312	㈱学習研究社	D	石包丁						マルチメディア教材「れいんぼう」
2001-129	20020312	国立歴史民俗博物館	D	海の中道製埴土器						「歴史ガイドブック」
2001-130	20020314	粕屋町教育委員会	A	戸原斐尾六花鏡・青磁碗他	44	44	0	0	20020401	町立歴史資料館常設展示
2001-B01	20020320	埋蔵文化財課	A	南八幡9次鉄片	19	19	0	0	20020320	業務
2001-131	20020322	市長室広報課	B	多々良込田陶磁器他	3	0	3	0	20020322	広報番組「みんなのふくおか」
2001-132	20020324	西南学院大学	A	羽根戸原C須恵器	20	20	0	0	20020401	博物館実習教材
2001-133	20020324	横浜地区すみよい町づくりの会	A	今山石器・土器	18	18	0	0	20020401	自治会館常設展示
2001-134	20020324	大阪府立弥生文化博物館	A	今山石斧他	24	24	0	0	20020401	常設展示
2001-135	20020324	菊池市教育委員会	A	博多陶磁器他	150	150	0	0	20020401	菊池神社歴史館常設展示
2001-136	20020324	リコーテクノシステムズ㈱九州支社	A	比恵25次土器	3	3	0	0	20020401	社屋ロビー常設展示
2001-137	20020324	新宮町教育委員会	A	石丸古川他夜白式土器	3	3	0	0	20020401	歴史資料館常設展示
2001-138	20020327	協栄福岡年金ホーム	A	唐原土器	6	6	0	0	20020401	館内常設展示
2001-139	20020327	古賀市教育委員会	AC	藤崎2次40号甕棺	3	2	0	1	20020401	市立歴史資料館常設展示
2001-140	20020327	三苦小学校	AB	三苦土器・石器他	73	69	3	1	20020401	校内常設展示
2001-141	20020327	名島小学校	A	蒲田・海の中道他土器・石器	28	28	0	0	20020401	校内常設展示
2001-142	20020329	賀茂小学校	A	鶴町(免)土器・石器	36	36	0	0	20020401	校内常設展示
2001-143	20020329	市川考古博物館	A	西新町甕棺	2	2	0	0	20020401	常設展示
2001-144	20020330	谷口憲由	B	老司古墳	2	0	2	0	20020330	「福岡市に伝わるむかし話」
2001-145	20020329	徳島市教育委員会	AB	有田177次前漢鏡他	30	19	11	0	20020402	企画展「よみがえる弥生の墓」
2001-146	20020330	博多区振興課	AB	博多陶磁器他	39	25	12	2	20020401	まちかど文化ひろば「えふギャラリー」展示
2001-147	20020128	㈱青潭社	B	吉武高木他	9	0	9	0	20020201	「週刊ビジュアル日本の歴史110号」
2001-148	20020330	徳島市教育委員会	B	吉武高木他	11	0	11	0	20020425	企画展「よみがえる弥生の墓」

註) 表の区分とは許可区分で、A：遺物貸出、B：写真貸出、C：その他の貸出、D：図面・写真等の使用、E：遺物撮影を示す。

4. 入館者数

(1) 入館者総数一覧

区分(日)	4月25	5月27	6月26	7月26	8月27	9月26	10月26	11月26	12月23	1月23	2月24	3月27	合計(人)	比率(%)		
個人	一般	119	147	165	120	147	140	117	141	143	123	127	168	1657	0.5%	
	女	66	115	98	75	89	48	90	98	65	60	75	116	995	31.0%	
	小計	185	262	263	195	236	188	207	239	208	183	202	284	2652	82.6%	
	小学生	10	20	10	9	19	13	6	1	2	5	2	7	104	3.2%	
	中学生	4	9	4	7	16	8	2	0	4	2	0	5	61	1.9%	
	高校生	8	2	6	4	5	0	1	3	1	1	0	1	32	1.0%	
	大学生	10	12	26	35	60	31	20	44	29	16	19	25	327	10.2%	
	その他	6	4	3	2	8	8	0	0	0	0	0	0	2	33	1.0%
	小計	38	47	49	57	108	60	29	48	36	24	21	40	557	17.4%	
	合計(a)	223	309	312	252	344	248	236	287	244	207	223	324	3209	100.0%	
団体	一般	69	285	275	125	143	64	157	0	183	147	115	152	1715	63.0%	
	(団体数)	1	8	7	3	3	3	6	0	3	3	3	4	44		
	小学生	0	291	298	127	0	5	0	57	0	0	0	0	778	28.6%	
	(団体数)	0	3	4	2	0	1	0	1	0	0	0	0	11		
	中学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	(団体数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	高校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	(団体数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	大学生	0	7	65	0	43	0	0	0	60	46	8	0	229	8.4%	
	(団体数)	0	1	1	0	2	0	0	0	1	1	1	0	7		
合計(b)	69	583	638	252	186	69	157	57	243	193	123	152	2722	100.0%		
(団体数計)	1	12	12	5	5	4	6	1	4	4	4	4	62			
総計(a+b)	292	892	950	504	530	317	393	344	487	400	346	476	5931			
各月一日平均(人)	11.7	33.0	36.5	19.4	19.6	12.2	15.1	13.2	21.2	17.4	14.4	17.6				
開館以降累計(人)	273769	274661	275611	276115	276645	276949	277355	277688	278186	278586	278932	279408				

(2) 個人入館者年齢区分一覧

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)	比率(率)
0~19才	27	35	23	23	50	30	9	6	9	13	2	16	243	7.6%
20~29才	23	19	62	56	98	57	79	77	44	34	31	43	623	19.4%
30~39才	47	70	87	78	78	60	35	69	71	63	53	68	779	24.3%
40~49才	44	91	72	47	62	32	40	61	68	58	59	97	731	22.8%
50~59才	44	52	43	31	38	47	39	53	39	22	42	58	508	15.8%
60~69才	20	24	20	15	14	12	23	17	11	14	24	27	221	6.9%
70~79才	18	17	5	1	3	8	11	4	2	3	11	15	98	3.1%
80才以上	0	1	0	1	1	2	0	0	0	0	1	0	6	0.2%
計	223	309	312	252	344	248	236	287	244	207	223	324	3209	100.0%

(3) 個人入館者住所区分一覧

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)	比率(率)
福岡市	148	180	218	150	205	147	159	197	167	151	138	210	2070	64.5%
福岡県外	45	88	57	65	76	36	24	38	33	22	43	63	590	18.4%
県外	30	39	37	33	63	65	53	44	44	29	36	44	517	16.1%
国外	0	2	0	4	0	0	0	8	0	5	6	7	32	1.0%
計	223	309	312	252	344	248	236	287	244	207	223	324	3209	100.0%

5. 平成13年度当初予算

(1) 歳入

2,576千円(国補助金1,995千円、使用料及び手数料149千円、諸収入432千円)

(2) 歳出

98,985千円(管理運営費76,350千円、事業費22,635千円)

Ⅱ 埋蔵文化財センターの概要

1. 組織と職員

(1) 福岡市文化財行政の組織

教育委員会—教育長—教育次長—文化財部長

文化財整備課	管理係	部の総括、予算・決算、庶務・経理、文化施設の管理
	整備係	文化財指定、史跡の保存・整備
課長	主査	鴻臚館跡調査担当
埋蔵文化財課	調査第1係	課の庶務、南・城南・早良・西区に係る埋蔵文化財の発掘調査
	調査第2係	国庫補助事業及び中央・博多・東区に係る埋蔵文化財の発掘調査
	事前審査係	公共及び民間開発事業の埋蔵文化財に係る事前審査
課長	主査	大規模事業等担当
埋蔵文化財センター	管理係	施設の管理運営、考古学的資料の収集・保存・展示

(2) 埋蔵文化財センターの職員（平成13年度）

所長 塩屋 勝利	管理係長 村上 敏文	事務吏員 矢野 昌治	嘱託 片多 雅樹 (保存処理指導員)
	主任文化財主事 濱石 哲也	文化財主事 加藤 良彦 文化財主事 比佐陽一郎	

2. 施設

(1) 施設の概要

センターは敷地面積4,000㎡、鉄筋コンクリート造3階建（建設面積1,015㎡、延床面積1,992㎡）の規模で昭和57年2月開館した。その後、昭和61年3月に収蔵庫を主とした増築（建設面積1,000㎡、延床面積1,994㎡）を行った。さらに平成9年度から大規模な増築・改造を実施し、平成11年4月にリニューアルオープンの運びとなった。

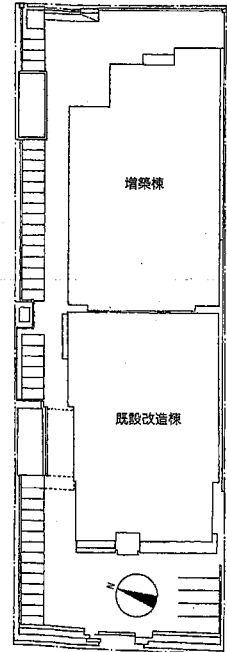
表15 増築・改造後の内容

区 分	内 容
敷地面積	7,481.77㎡
構 造	鉄筋コンクリート造3階建（一部2階建）
建築面積	3,987.03㎡
延床面積	10,713.60㎡
事業費	建設費 1,753,416千円 （工事費1,568,018千円、設計監理等委託料79,738千円、 発掘調査費22,102千円、役務費46,024千円、事務費37,534千円） 用地費 733,952千円 財源内訳 国庫補助金210,000千円、市債1,338,000千円、市費946,691千円
工 期	着工 平成9年6月 竣工 平成10年12月
主要施設	増築 一般収蔵庫、特別収蔵庫、木器保存処理室、金属処理室、光学機器室等 改造 記録収蔵庫、資料貸出準備室、図書室、第3展示室等

(2) 主な施設

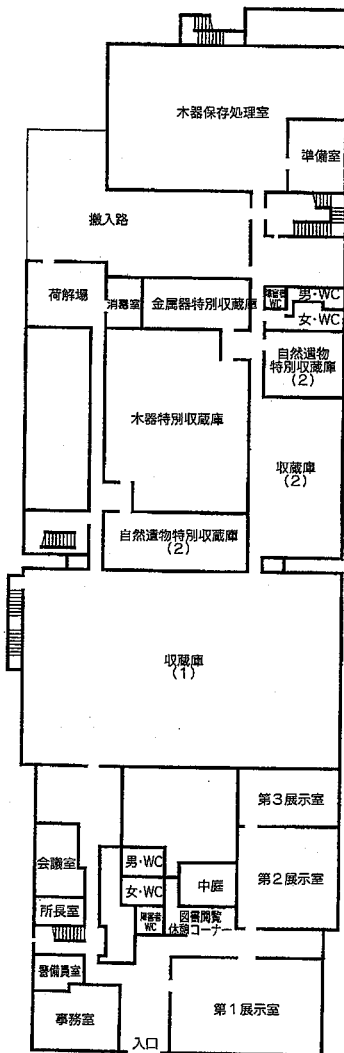
施設区分	室名	床面積(m ²)
教育普及	第1展示室	167.00
	第2展示室	127.00
	第3展示室	61.00
	研修室	140.00
	図書室・図書コーナ	181.00
	貸出準備室	85.00
	資料閲覧室	58.00
収蔵	収蔵庫	5,601.00
	特別収蔵庫	547.00
	記録類収蔵庫	192.00
	荷解・搬入室	65.00
	消毒室	23.00

施設区分	室名	床面積(m ²)
保存処理	木器保存処理室	426.00
	金属器処理室	156.00
	分析室	154.00
資料整理	洗浄室	37.00
	資料整理室	235.00
	写場・暗室	63.00
管 理	倉庫	58.00
	事務・会議室等	140.00
	警備・機械室等	258.00
	通路・エレベーター等	1,434.00
その他	疵・トラックヤード等	505.60
	計	10,713.60

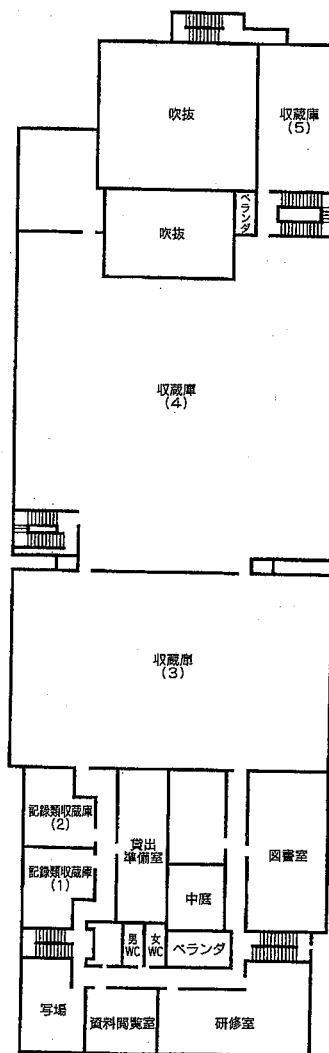


▼ 施設平面図

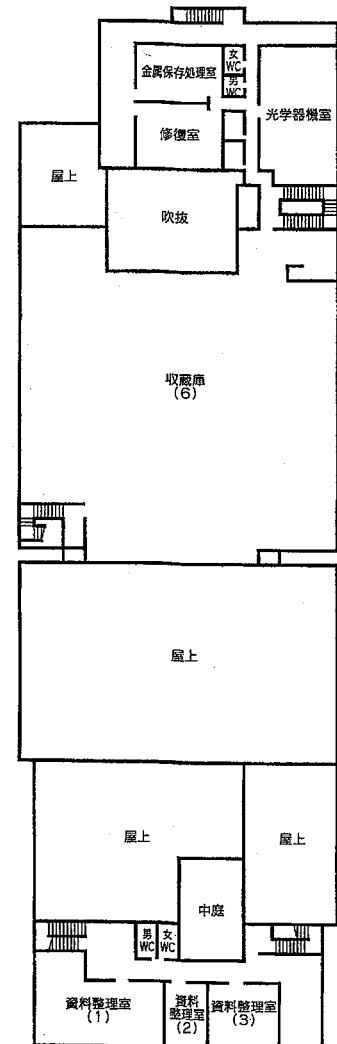
平面概念図 ▶



〔1階〕



〔2階〕



〔3階〕

付1 福岡市埋蔵文化財センター条例等

福岡市埋蔵文化財センター条例

(昭和56年12月21日
条例第66条)

(設置)

第1条 発掘調査等で出土した考古学的資料(以下「資料」という。)の保存と活用を図り、もって市民文化の向上に資するため、福岡市埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を福岡市博多区井相田2丁目に設置する。

(事業)

第2条 センターは、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料を展示し、公開すること。
- (3) 資料の専門的調査研究を行うこと。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、センター設置の目的達成に必要なこと。

(職員)

第3条 センターに所長その他必要な職員を置く。

(入館の制限)

第4条 教育委員会は、次の各号いずれかに該当する者に対し、入館を拒み、又は退去を命ずることができる。

- (1) センターの管理上必要な指示又は指導に従わない者

(2) センターの管理上支障があると認められる者(資料の貸出し)

第5条 教育、学術若しくは文化に関する機関若しくは団体又は学術研究のため特に資料を使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けて資料の貸出しを受けることができる。

2 前項の貸出しは、資料の保管について安全が確保できると認められる場合に限り行うものとする。

(損害賠償)

第6条 資料の観覧者または貸出しを受けた者が、その責めに帰すべき理由によりセンターの建物若しくは施設又は資料を破損し、滅失し、又は汚損して本市に損害を与えたときは、これらを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、交付の日から起算して3月を越えない範囲内において教育委員会規則で定めた日から施行する。

(昭和57年規則第3号により
昭和57年2月22日から施行)

福岡市埋蔵文化財センター条例施行規則

(昭和56年1月25日
教育委員会規則第4号)

改正 昭和61年一教規則2、平成4一教規則7、
平成4一教規則3

(趣旨)

第1条 この規則は、福岡市埋蔵文化財センター条例(昭和56年福岡市条例第66号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 福岡市埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)の事業を行うため、センターに管理係を置く。

(職員)

第3条 センターに所長、係長、吏員その他の職員を置く。

2 前項の職員のほか、特定事務を担当させるため、センターに主任文化財主事及び文化財主事を置くことができる。

3 所長、係長、主任文化財主事、文化財主事は、吏員のうちから命ずる。

4 係長又は主任文化財主事のうちから統括係長を命ずることができる。

5 所長及び係長は、上司の命を受けてセンター又は係りの事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

6 主任文化財主事及び文化財主事は、上司の命を受けて担当事務を処理する。

(職務権限の代行)

第4条 所長に事故がある場合、又は所長が欠けた場合において、特に事務取扱者を命じないときは、係長がその係りに属する事務について所長の職務権限を代理して行う。ただし、重要又は異例な事務については、文化財部長の指揮を受けなければならない。

2 前項の規定により所長の職務権限を代理して行う者がいないときは、文化財部長が行う。

(開館時間)

第5条 センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育長は、必要があると認める場合は、これを変更することができる。

(休館日)

第6条 センターの休館日は次のとおりとする。ただし、教育長は、必要と認める場合は、これを変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

(1) 毎週月曜日

(2) 12月28日から翌年1月4日まで

(入館者の心得)

第7条 センターに入館する者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

(1) 所定の場所以外の場所で飲食し、喫煙し又は火

気を使用しないこと。

- (2) 騒音を発する等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 危険物又は動物を持ち込まないこと。
- (4) 所定の場所以外に立ち入らないこと。
- (5) 職員が行う管理上必要な指示又は指導に従うこと。

(貸出)

第8条 条例第5条第1項の規定による資料の貸出しを受けようとする者は、福岡市埋蔵文化財センター資料貸出許可申請書(様式第1号)を教育長に提出

しなければならない。

(寄贈等)

第9条 センターに資料を寄贈し、又は寄託しようとする者は、教育委員長に申し出なければならない。
2 寄託を受けた資料の貸出しは、寄託者の承諾を得て行うものとする。

(委任)

第10条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和57年2月22日から施行する。

保存処理設備機器の外部使用許可基準

1. 基本的使用許可基準

外部に対する保存処理設備機器の使用許可に際しては、下記要件を満たすものであることを原則とする。

- (1) 本市の保存処理業務に支障をきたすおそれがないこと。
- (2) 文化財保護の観点から重要性があり、本市の文化財保護行政に寄与するものであること。

2. その他の許可基準

- (1) 使用は、センター職員の指導・助言のもと、原則として外部担当職員が行うものとする。
- (2) 使用に際して必要となる原材料・作業員等は使用者側(外部)の負担とする。
- (3) 一括委託等請負的な処理は許可しないこととする。
- (4) 民間業者等営利を目的とする団体からの依頼については許可しないこととする。
- (5) 緊急性のある場合や特殊なものを除いて、通常の保存処理については受け付けないものとする。
- (6) 使用に際しては、事前にセンター職員と協議のうえ申請書を提出し、許可を得ることを必要とする。
- (7) 使用にあたってはセンター職員の指示に従うこと。また指示以外の行為により機器を破損した場

合は、使用者側の責任において原状回復すること。

3. 対象機器一覧

本基準を適用する保存処理機器は、別紙一覧表の通りとする。

4. 許可基準の理由(略)

本基準は平成12(2000)年3月1日より施行する。

(別紙) *主な保存処理機器の品名のみを列記

大型PEG含浸槽、一体型PEG含浸槽、真空凍結乾燥機、小型真空凍結乾燥機、有機遺物処理装置、減圧含浸装置、工業用電子天秤、偏光顕微鏡、実体顕微鏡、ビデオマイクロスコープ、赤外線カメラ、画像ファイリング装置、分析用電子天秤、赤外線分水計、大型滑走式マイクロトーム、蛍光X線分析装置、微小部蛍光X線分析装置、X線回析装置、走査電子顕微鏡、顕微赤外分光光度計、透過X線撮影装置、分析用試料作成装置、マグネチックスターラー、ドラフトチャンバー、精密噴射加工機(エアブラシ)、精密グラインダー、送風定温乾燥機、大型送風定温乾燥機、真空乾燥機、卓上電気炉、純水製造装置、超音波洗浄機、真空デシケーター、攪拌機、真空脱泡用デシケーター、シーラー、バキュームシーラー、ホットエアガン

埋蔵文化財センターにおける有料複写サービス取り扱い要項

(目的)

第1 この要領は、教育委員会文化財部埋蔵文化財センターにおいて、埋蔵文化財センター図書室所蔵の発掘調査報告書等行政資料のサービスを行う際の取り扱いについて、必要な事項を定めるものとする。

(複写サービスの申し込み)

第2 複写サービスの申し込みは、口頭で受けるものとする。

(複写手数料)

第3 複写サービスについてはあ、福岡市手数料条例(昭和35年条例第11号)第2条第2項に基づき実費を徴収するものとし、その複写サービス料金は次の通りとする。なお、手数料については利用者が見やすいところに掲示するものとする。

- (1) 用紙の規格は日本工業規格B列5番からA列3

番までとし、1枚につき10円とする。

(複写手数料の納入等)

第4 行政資料複写の申し込みがあった場合は、申込者に対して複写手数料の金額を告知し、現金による納入を受けた後、金銭登録機で打出した領収票又は現金領収帳による領収書を交付するものとする。

付 則

この要項は平成12年4月5日から施行する。

この要項は平成14年8月1日から施行する。

この要項は平成15年1月7日から施行する。

付2 平成13年度刊行福岡市埋蔵文化財調査報告書一覧

[] は遺跡調査番号

- 698集 梅林遺跡3 [9843]
- 699集 外環状道路関係埋蔵文化財発掘調査報告書13 [9936]
- 700集 外環状道路関係埋蔵文化財発掘調査報告書14 [0007・0039・9964・9962]
- 701集 外環状道路関係埋蔵文化財発掘調査報告書15 [9128・0037]
- 702集 立花寺B遺跡2 [9730・9810・9915]
- 703集 箱崎11 [9835]
- 704集 箱崎12—箱崎遺跡第17次— [9864・0041]
- 705集 箱崎13—箱崎遺跡第21次調査報告— [9978]
- 706集 博多80—御供所疎開地道路関係埋蔵文化財調査報告書— [9752・9778]
- 707集 博多81—博多遺跡群100次— [9647]
- 708集 博多82 [9913]
- 709集 博多83—博多遺跡群第127次調査の概要— [0053]
- 710集 博多84 [9969]
- 711集 博多85—博多小学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— [9836]
- 712集 久保園遺跡2・青木遺跡4 [0017・0026]
- 713集 那珂32—那珂遺跡群第73次— [9948]
- 714集 那珂30—那珂遺跡群第75次— [9971]
- 715集 那珂31 [0045・0048]
- 716集 板付周辺遺跡調査報告書第23集 [7839]
- 717集 板付周辺遺跡調査報告書第24集 [8654・8907]
- 718集 板付周辺遺跡調査報告書第25集 [0051]
- 719集 麦野A遺跡 [0061]
- 720集 五十川遺跡 [9757・9853・9837・9846]
- 721集 井尻B遺跡10 [0004]
- 722集 元岡桑原遺跡群1 [9659]
- 723集 田島A遺跡 [0010・0029・0032・0044]
- 724集 原東遺跡 [0063]
- 725集 有田・小田部37 [8713・8912]
- 726集 元寇防塁 [9939]
- 727集 下山門敷町遺跡・下山門乙女田遺跡 [9950・9966]
- 728集 コノリ製鉄B遺跡 [9839]
- 729集 野方平原遺跡 [9975・0003]
- 730集 鋤崎古墳 [8202]
- 731集 吉武XIV [8535]
- 732集 大原D遺跡 [9729・9901]
- 733集 鴻臚館12 [9910・0008]

福岡市埋蔵文化財年報Vol.15

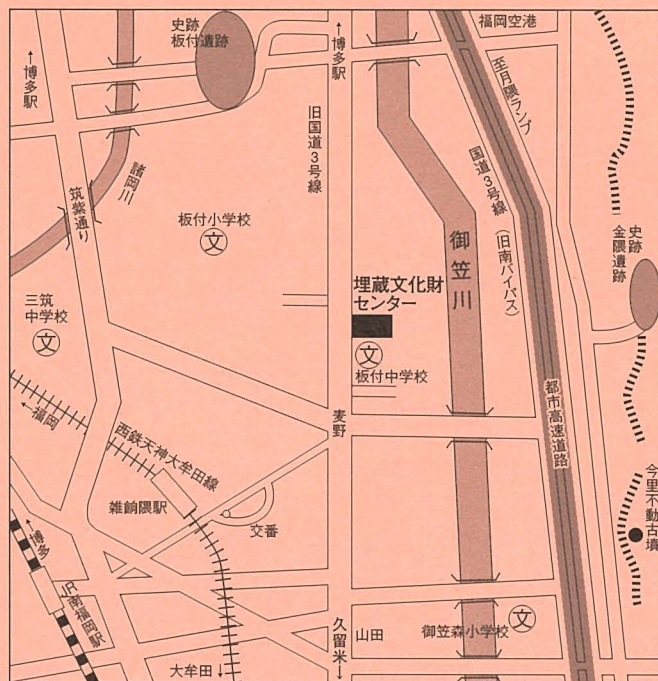
また市内遺跡の調査として福岡県教育委員会が次の報告書を刊行している。

1045 西新町遺跡IV 福岡県文化財調査報告書第168集

FUKUOKA CITY ARCHAEOLOGY CENTER

Annual Report

No.21
2003



福岡市埋蔵文化財センター

- 所在地 福岡県福岡市博多区井相田2丁目1-94 (〒816-0081)
- 電話 (092) 571-2921 Fax. (092) 571-2825
- 開館時間 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日・年末年始 (12月28日～1月4日)
- 入館料 無料 (ただし団体で見学の場合は事前に連絡が必要)
- 交通手段 ■西鉄天神大牟田線 雑餉隈^{ぞっしよのくま}駅から徒歩15分
- JR鹿児島本線 南福岡駅から徒歩25分
- 西鉄バス 博多駅バスセンターから41番雑餉隈^{ぞっしよのくま}営業所行に乗車30分
板付^{いたづけ}中学前 (埋蔵文化財センター前) 下車すぐ